年　報 第４０集

平成２１年度文化財調査報告書

前橋市教育委員会

はじめに

本書は平成21年度の文化財保護課が所管する諸事業の実施概要をまとめたもので、通巻第40集にあたります。昭和44年度の文化財調査報告第1集から毎年1冊ずつ号を重ねたもので、この間、名称は「調査報告書」から「年報」へと変わりましたが、今では、前橋市における文化財保護行政の歩みを物語る貴重な資料となっています。

第1集は前橋市内で最初に計画された大住宅団地の造成によって、壊されることになった古墳の調査報告書でした。文化財保護、特に文化財保護行政の黎明期における埋蔵文化財の保護と開発という狭間で苦悩する当時の担当職員の姿が伝わってきます。

この４０年間で世の中は、大きく変わりました。昭和６０年代からコンピューターの普及によるインターネットの浸透、情報社会の発達による国際化、グローバル化などが言われていました。その後、平成３年のバブル経済の崩壊以降、日本の社会の状況も、高度成長社会から長引く経済不況による低成長社会、それに加えて超高齢社会への突入、そしてそれらの社会状況に対する社会保障費用等の増大化。社会資本整備事業の見直しや税収入などの収入減による公共事業などの見直しなど、さらに大きな変革が行われています。

その結果、文化財保護行政を取巻く状況は、今、文化財保護事業の調査予算や史跡の管理費、整備費などの圧縮など大きな転換点を向かえていると思えます。

目まぐるしく変わる社会情勢に対して、わたくしどもが取り扱う文化財は、普遍的な価値を有しているといえます。それらの文化財を、どう残すべきか、いかに後世に伝えるのか、そしてそれを残すことが前橋のこれからにどのように作用するのかを明確に示すことが、今、文化財保護行政に求められていることだと思います。

本書がそれらの課題の解決に向けた一助になることを願います。最後に本市の文化財保護行政を進めるにあたり、ご指導ご協力を賜った関係各位、並びに諸機関に心より御礼申し上げ序といたします。

前橋市教育委員会

教育長　佐藤博之

目　　次

はじめに

第１章　文化財調査委員による調査

１　富士見地区指定文化財調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

２　樹木調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

３　建造物調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

４　市内文化財調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

５　宮城地区市指定文化財再現地調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

第２章　新指定文化財

１　荒子杉山古墳・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

２　遠見山古墳・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

第３章　文化財保護事業

１　保護管理運営事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

２　整備事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

３　普及事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

４　埋蔵文化財発掘調査事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

５　市内遺跡発掘調査事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42

６　遺跡台帳整備事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42

７　埋蔵文化財資料整備事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42

８　山王廃寺等保存整備事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43

９　群馬県緊急雇用創出基金事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45

あとがき

第１章　文化財調査委員による調査

１　富士見地区指定文化財調査

平成２１年５月の合併により本市に引き継がれた富士見地区の指定文化財について、平成２１年９月８日(月)、前橋市文化財調査委員による調査を実施した。国指定文化財１件、県指定文化財４件、市指定文化財１１件の計１６件について、現地で現況の確認を行った。調査対象物件は、以下のとおりである。

調査対象物件（調査順）

1	県重	小鳥が島出土鏡 （附宝塔及び経筒残欠） ※調査は、宝塔のみ	富士見町赤城山大洞 4-2
2	市天	沼の窪のザゼンソウ	富士見町赤城山（沼の窪市有林内）
3	市重	珊瑚寺の板碑と多宝塔	富士見町石井 1227
4	市重	不入の蔵骨器	富士見町石井 1116
5	市史	皆沢焼窯跡	富士見町皆沢江戸窪
6	市重	旧小暮一の鳥居	富士見町小暮 814
7	県天	時沢の夫婦マツ	富士見町時沢 3164
8	市史	旧赤城神社参道松並木	富士見町時沢 1866
9	市重	時沢の仁王と多宝塔	富士見町時沢 685
１０	市重	横室の宝篋印塔	富士見町横室 185
１１	県重	横室の歌舞伎衣裳	富士見町横室 730
１２	市重	萩林庵の阿弥陀像	富士見町原之郷甲 1791
１３	市重	原西の阿弥陀座像	富士見町原之郷 551-2
１４	県史	船津伝次平の墓	富士見町原之郷乙 539
１５	市史	九十九山古墳	富士見町原之郷 275-1
１６	国天	横室の大カヤ	富士見町横室 1023-1

2　樹木調査

平成２１年１０月８日(木)、下記の２物件について、調査を実施した。

(1)横室の大カヤ（国指定天然記念物）

所在地　　　富士見町横室 1023－1

指定年月日　昭和８年４月 13 日

旧富士見村目通り周計測値

約 7.3m（指定台帳）、

約 8.2m（旧富士見村パンフレット）

調査

ア 大きさ　樹高　　　20.5m

目通り周　8.43m（根上がりの上 8.33m）

枝張り　　東西 21.90m、南北 27.25m

根周り　　23.94m

イ 現状

地上約２ｍから６本に分かれて枝を広げている。中心部の幹は枯れており、枝の切断部にはトタンの覆いが被せてある。幹の中心部は洞が出来ているとみられる。

実が熟して落下し、種皮（仮種皮）から出た種子は通常のものより小さく、長さ約２ｃｍ、幅約１ｃｍであった。カヤの所有者が保存していた昨年の種子は、長さ約３ｃｍ、幅約１．５ｃｍであり、見た目にも明らかな差があった。今年の種子が小さかったのは、結実期における少雨の影響による一時的なものとも考えられるが、枝や葉の状態からみて、樹勢の衰えが推測される。

このような老木には、根元の踏み固めによる水の浸透や根張りの阻害が大きく影響することがあり、樹勢の衰えが進む虞も懸念される。

生育場所の約１５ｍ北には、三面コンクリート製の大正用水がある。かつてカヤの生育場所の南側には湧水があり、水田の灌漑にも利用されていた。現在、湧水は枯れてなくなり、畑になっている。これらのことから、地下における水分条件が変化しているとみられ、カヤの生育に影響を与えていると推定される。

カヤの種子（０９年小　０８年大）

（2）西大室町のクワ

所在地　　　　西大室町 2064

指定年月日　　未指定

調査

ア 大きさ

樹高	11.5m
目通り周	180cm(弓なりに曲る、根元から 130cm の幹周 182cm)
枝張り	東西 14.30m、南北 12.60m
根周り	3.15m

イ 現状

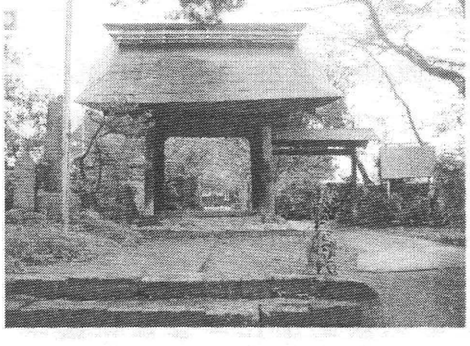
クワは、ヤマグワ系の雄木であり、所有者宅の入り口から母屋に至る通路わきにある。幹は西側に曲って伸び、高さ約２ｍで２つに枝分かれし、２本の支柱が幹と枝を支えている。枝分かれ部分には裂け目があり、やや腐りが入っている。地上約５０ｃｍの幹の表面に裂け目があることから、根元近くには洞があるものとみられる。

老木であるが樹勢は旺盛で、葉を多く付けている。県内にあるクワの記録からみて、樹齢は３００年以上と推定される。厚くなった樹皮にはコケが生え、ノキシノブも付着・生育を始めており、約１０ｃｍのサンショウの芽生えも見られた。

3　建造物調査

平成２１年１０月１７日(土)、下記の２物件について、調査を実施した。

（1）養林寺の山門



本物件については、所有者側からの依頼を受け調査を実施した。調査の

結果、巻きや木鼻の形状からすると、伝えられているように古いものではあるように見られたが、扉がない、軸受けの藁座がない、頭貫から上の材質が下の材質と異なっており、風化にかなり違いが見られる等の点が確認され、全体として改築が多くなされていることが、明らかとなった。

本物件の評価については、市内全域の社寺調査実施後、改めて行うこととなった。

（２）平和町雷電神社の山車

本物件については、平成２０年度から調査を実施している。今年度は、建造物分野の村田委員による現況確認調査及び専門的な見地から判断される現時点での評価、扱いについて、所有者側へ説明を行った。

なお、本物件については昨年度の事前調査を受け、山車の調査の専門家である日本工業大学の黒津教授に調査を依頼し、現在も調査継続中となっている。今年度に実施した黒津教授による調査は、以下のとおりである。

平成２１年　８月	平和町雷電神社の山車調査
	富田町の屋台調査
平成２１年１０月	平和町雷電神社の山車調査（祭り当日）
平成２１年１１月	平和町雷電神社の山車調査（墨書の撮影）

４　市内文化財調査

平成２１年１０月２３日（金）、以下の物件について調査を実施した。

（１）荒砥１号墳

市指定史跡への指定に向けた、基礎資料の収集を行った。

（２）養林寺の山門

現況を確認した後、１０月１７日（土）に実施した建造物調査の結果を所有者側へ伝えた。

（３）暴れ獅子

今回は、聞き取り及び収蔵庫の現況確認を中心に調査を実施した。

暴れ獅子は、幅広く知れ渡っているが、本来は神輿の渡御が本祭りで、暴れ獅子は附祭りとして催行されているとのことであった。

暴れ獅子に関する資料で現存するものは少なく、今回の調査では、明治１３年の祭りの催行願いの写しが確認されただけであった。

本物件については、新たな資料が出てきた段階で、再度調査を行うこととなった。

（４）上新田雷電神社太々神楽

上新田雷電神社太々神楽は、明治２３年頃総社神社から伝わったとされ、伝授書も残っていたとのことであったが、戦災で全て焼けてしまい、今回の調査で確認されたものは、明治２５年の奉納を示す神楽殿の幕のみであった。

また、芸能の特色であるとされた「白狐の舞」は、座名は異なるが、市内の各地で見られるものと同系統のものであった。

本物件についても、新たな資料が出てきた段階で、再度調査を行うこととなった。

（５）遠見山古墳

市指定史跡への指定に向けた、基礎資料の収集を行った。

（６）愛宕山古墳

総社古墳群として指定するに当たり解決すべき課題について、現地で確認を行った。

5　宮城地区市指定文化財再現地調査

昨年度実施した、大胡・宮城・粕川地区の市指定文化財に関する意見交換会・協議で、再度現地調査を行うこととされた宮城地区の下記の物件について、平成２１年１１月９日（月）、前橋市文化財調査委員及び旧宮城村文化財調査委員による調査を実施した。

調査対象物件は、以下のとおりである。

宮城地区の市指定文化財については、現地調査を実施しても不明な点が多く、取り扱いや今後の進め方も含めて、次年度以降、再度検討することとなった。

調査対象物件（調査順）

1	市重 96	凝灰岩石仏	柏倉町 1940
2	市重 97	石殿	柏倉町 1940
3	市重 95	凝灰岩石仏	柏倉町 1428-1
4	市史 37	柏倉殿替戸砦跡	柏倉町 1412-1
5	市重 94	板碑石塔群	柏倉町 582
6	市重 79	板碑	鼻毛石町 766
7	市重 135	凝灰岩薬師石仏	大前田町 1380-1
8	市重 114	石殿	馬場町 402-8
9	市重 115	凝灰岩石仏	馬場町 409-5

１０	市史 32	馬頭観音の塔	馬場町 67-1
１１	市史 33	馬場の大灯籠	馬場町 56-2
１２	市重 111	馬頭観世音	馬場町 29-1
１３	市重 105	石仏（山街道薬師）	苗ケ島町 631-1
１４	市重 83	小林の赤城塔	苗ケ島町 599
１５	市重 104	石仏（石合薬師）	苗ケ島町 503
１６	市重 106	五輪塔	苗ケ島町 501
１７	市重 108	石灯籠	苗ケ島町 1100-1
１８	市重 109	石殿	苗ケ島町 1088-1
１９	市重 102	赤城塔（並木道祖神）	苗ケ島町 1147-2
２０	市重 117	十一面観音木像	苗ケ島町 1147-2
２１	市重 125	懸仏	苗ケ島町 1147-2
２２	市史 28	斉藤多須久翁の碑	苗ケ島町 1061-1
２３	市史 34	白山古墳	苗ケ島町 1659

第２章　新指定文化財

１　荒子杉山古墳

区　　　分　　　前橋市指定史跡
指定年月日　　　平成22年3月19日
所　在　地　　　前橋市荒子町字新宿１１８８番１９、１１９０番1、１１９０番１０
所有者及び管理者　　　個人

【概　要】

荒子杉山古墳は、荒子小学校の南東約３００mに位置する。

本物件のある荒砥地区は、「上毛古墳綜覧」（群馬県　昭和１３年刊行）によると、昭和１０年には、３６５基もの古墳が確認され、本物件は、その第１号として取り上げられている。

戦後の食料増産に伴う畑地拡大及び昭和５０年～６０年代に実施された荒砥北部土地改良事業によって、荒砥地区の多くの古墳は削平されたが、本物件は、円墳で直径約３０m、高さ約４mの規模を持ち、墳丘の東側の1/4程が削られていたものの、形状を留めていた。

本物件については、これまでに２度の試掘調査が行われている。平成１６年度には、墳丘北側の宅地造成に伴う試掘調査により、古墳の周堀が確認され、保護層を確保しての現状保存の措置が取られた。

平成１９年度には、墳丘を含む南側の宅地造成の計画が出され、試掘調査を行った結果、周堀や石室の入り口の一部を確認した。また、土師器や須恵器の破片も検出された。

石室は、輝石安山岩を使用した７世紀中頃～後半と推定される切石加工の精巧なつくりであることが判明し、荒砥富士山古墳（県指定史跡）や小稲荷１号墳と並んで非常に貴重な古墳であることが明らかとなった。周辺には、大室古墳群や豪族の居館跡等もあり、有力豪族層との関係も窺える古墳である。さらに詳細な調査を実施すれば、貴重な資料が得られる可能性が高いものと考えられる。

現段階では、古墳の全容は解明されていないが、文化財として保護する必要性が高い物件として史跡指定を行ったものである。

【指定理由】

７世紀中頃～後半の截石切組積が推定される精巧な造りの石室を持ち、赤城山南麓の終末期の古墳資料として非常に貴重である。

2　遠見山古墳

区　　　分	前橋市指定史跡
指定年月日	平成22年3月19日
所　在　地	前橋市総社町総社字給人城川甲１４１０番、乙１４１０番
所有者及び管理者	個人

【概　要】

遠見山古墳は、利根川右岸の総社町から大渡町にかけて広がる総社古墳群の形成の端緒をなす重要な古墳である。

本物件については、平成３年度と平成６年度に試掘調査が実施された。

平成３年度には、宅地造成に伴う試掘調査が、墳丘の南東部及び南西部で行われた。調査の結果、墳丘の一部は削平されていることが判明したが、周堀及び墳丘の南西コーナーが確認された。また、周堀の最下層からは、６世紀初頭の榛名二ツ岳火山灰層が確認され、埴輪片も検出された。このことから、本物件は、５世紀後半の古墳であると推定されている。

平成６年度には、自治会館建設に伴い、前方部北側の試掘調査が行われた。調査により、従来想定されていた墳丘及び周堀のラインが、さらに外側に膨らむことが明らかとなった。

２度にわたる試掘調査の結果から、一部は削平されているものの墳丘長約７０ｍ、周堀まで含めると全長１００ｍ以上の大型の前方後円墳であったと推定されている。周辺には、これより前に築造された古墳はなく、本物件は、総社古墳群の成立を解明する上で極めて重要な古墳に位置づけられると考えられている。

周辺は、耕作や宅地開発の影響で当初の姿を完全には留めていないが、墳丘の遺存状況は良好であり、前方後円墳として視認できる数少ない古墳の一つである。

総社古墳群を形成する本物件（５世紀後半）、王山古墳（６世紀初頭）、（総社）二子山古墳（６世紀後半）、愛宕山古墳（７世紀前半）、宝塔山古墳（７世紀中頃～後半）、蛇穴山古墳（７世紀末葉）は、県内の各時期の古墳と比較し、最も大型の部類に属する。総社古墳群を築造した豪族は、ヤマト政権との深いつながりを持つ有力豪族であったと推測されており、本物件は、５世紀後半から急速に力をつけ、この地域一体を支配した豪族の勢力拡大過程や総社古墳群の成立を解明する上で極めて重要な古墳であると考えられている。

現段階では、古墳の全容は解明されていないが、古墳そのものの重要性を踏まえて史跡指定されたものである。

【指定理由】

群馬県を代表する総社古墳群の中で、最古に位置づけられると見られる古墳であり、総社古墳群の成立を解明する上で極めて重要な古墳である。

第３章　文化財保護事業

１　保護管理運営事業

(1)　国有文化財管理

文部科学省（文化庁）が所有する、国有文化財、天川二子山古墳と総社二子山古墳の２箇所について、各自治会役員２名を国有文化財看視人として委託し、見回り看視、清掃等の日常管理を実施した。また、同古墳の除草等については、天川二子山古墳は前橋市シルバー人材センターに業務委託し、総社二子山古墳は地元の総社地区史跡愛存会に業務委託のうえ、６月下旬と９月の計２回実施した。

除草作業総社二子山古墳

(2)　国・県・市指定文化財管理

平成２１年５月に旧富士見村の文化財１６件が、本市に引き継がれた。今年度の新指定を加えた平成２２年３月末現在の指定文化財の数は、下記のとおりである。

指定区分	国指定	県指定	市指定	合　計
重要文化財	4	43	147	194
史　　跡	11	12	56	79
無形文化財	0	0	11	11
有形民俗文化財	0	0	6	6
無形民俗文化財	0	2	8	10
天然記念物	2	3	12	17
名　　勝	0	1	0	1
合　　計	17	61	240	318
登録有形文化財	22	―	―	22
登録有形民俗文化財	1	―	―	1
重要美術品	8	―	―	8

①　史跡等の除草及び樹木処理

市が管理する史跡等について、地元自治会、シルバー人材センター及び業者に委託し、環境美化に努めた。

除草業務一覧表

	史跡名	区分	所在地	除草面積（㎡）
1	亀塚山古墳	市指定	山王町 1-28-3	4,968
2	金冠塚古墳	市指定	山王町 1-13-3	4,814
3	今井神社古墳	市指定	今井町 818	4,624
4	車橋門跡	市指定	大手町 2-5-3	750
5	天神山古墳	県指定	広瀬町一丁目 27-7	730
6	八幡山古墳	国指定	朝倉町四丁目 9-3	20,000
7	蛇穴山古墳	国指定	総社町総社 1587-2	400
8	宝刀山古墳	国指定	総社町総社 1606	2,204
9	女堀	国指定	富田・東大室・二之宮・飯土井他	59,986
10	不二山古墳	市指定	文京町三丁目 151-6	1,142
11	荒砥不二山古墳	県指定	西大室町 813-2 他	2,700
12	大胡城跡	県指定	河原浜町 660-1 急傾斜地 660-31, 32	24,934 3,700
13	堀越古墳	県指定	堀越町 861-1	582
14	大日塚古墳	市指定	五代町 214	1,124
	計			132,658

樹木等処理一覧

	史跡名	区分	所在地	処理内容
1	蛇穴山古墳	国指定	総社町総社	伐採
2	宝塔山古墳	国指定	総社町総社	伐採 剪定
3	後二子古墳	国指定	西大室町	伐採
4	天川二子山古墳	国指定	文京町	伐採
5	総社二子山古墳	国指定	総社町植野	剪定
6	八幡山古墳	国指定	朝倉町	伐採
7	金冠塚古墳	市指定	広瀬町	剪定
8	女堀	国指定	二之宮町	伐採

②　その他の環境整備

ア　市が管理している史跡等について、職員の見廻り巡視を行い、見学路・景観確保のためゴミ拾いとともに、折枝や枯木の発見に努めた。

イ　市が直接管理する国指定史跡４ヶ所の樹木に発生する害虫アメリカシロヒトリの防除を行なうため、オルトランカプセル（樹木注入型殺虫剤）の樹幹注入を職員により実施した。

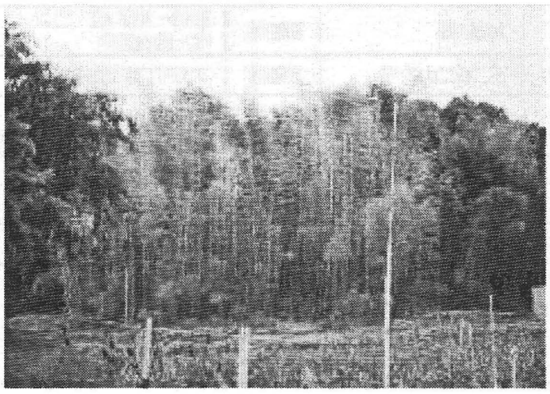
(イ)実 施 日

平成２１年6月１５(月)、１６日(月)

(ロ)実施場所
①天川二子山古墳
②総社二子山古墳
③宝塔山古墳
④蛇穴山古墳
(ハ)樹木本数
８１本(４ヶ所合計)

ウ　市が管理している、国史跡の女堀二之宮町地区の個人住宅に影響を及ぼす北側の竹に竹稈注入を７月２９日に行い竹の枯渇を計った。竹稈注入本数およそ３００本。

その後、９月４日に個人住宅隣の畑に接する北側竹林に竹稈注入を行った。竹稈注入本数およそ３００本。



枯渇した竹

(3)　文化財の保護

①　文化財パトロール

市内を１０地区に分け、各地区に文化財保護指導員を配置して、指定文化財の管理状況の把握に努めた。報告は月１度書類の提出をお願いし、その報告の内容により対処した。また、その報告書の書式を一部変更し、文化財の状況をＡＢＣＤで評価してもらい具体的に分かるようにした。

委嘱式及び第１回会議は、5 月 20 日に行ない、平成 21 年度は、富士見村の合併により富士見地区の文化財保護指導員を引き続き委嘱した。引き続き平成 21 年度事業概要等を報告した。

また、文化財保護指導員の資質の向上を図るために、10 月 30 日に情報交換会を実施し、担当地区の文化財の状況や今後の方針、報告書にあがっていた問題点の対処方法を報告した。そのあと埋蔵文化財の発掘調査が行われている元総社町蒼海地区の発掘現場及び山王廃寺発掘現場での市内視察研修を行い、指導員の知識習得に多大な成果を収めることができた。

文化財保護指導員市内研修

②　防火査察及び文化財防火訓練

ア　防火査察

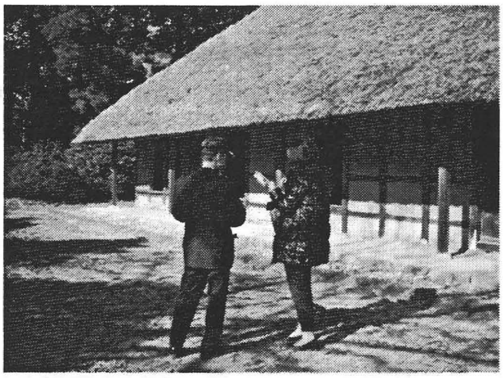
第５６回文化財防火デーにより、４５件の文化財査察対象物に対して８班編成を組み、前橋市消防本部(各消防署)及び㈱東京電力等と協力して、合同立入査察を実施した。

○平成２２年1月１９日(火)
(３班東消防署：６施設　９：３０～)
旧諏訪神社の宝物・堀越掛舞台下座一対・五十山薬師如来十二神将・大胡神社の算額他・阿久沢家住宅・十一面観音木像他・歌舞伎舞台他。
(４班東消防署：５施設　１３：３０～)
狂歌合の額他・赤城神社本殿内宮殿他・近戸神社御輿地・三番叟かしら対附属文書・木造十一面観音立像
(５班西消防署：４施設　１３：３０～)
上野総社神社本殿他・徳蔵寺懸仏・麻本著色両界曼荼羅一対・大徳寺総門・多宝塔・光厳寺薬医門・打敷・油単並びに幡。
○平成２１年1月２０日(水)
(７班北消防署：３施設　９：３０～)
日輪寺寛永の絵馬他・前橋藩家老小河原左宮の甲冑付旗差物・善勝寺鉄造阿弥陀如来坐像。
(６班南消防署：８施設　１３：３０～)
旧関根家住宅・無量寿寺地蔵菩薩立像・無量寿寺十一面観世音立像・二宮赤城神社絵馬他・産泰神社本殿・幣殿拝殿神門及び境内地他・慈照院千手観音座像・円満寺薬師如来座像・円満寺石造阿弥陀三尊坐像・駒形牛頭天王の獅子頭一対・旧アメリカンボード宣教師館。

（8班白川分署：5施設　１３：３０～）
横室の歌舞伎衣装・珊瑚寺の板碑と多宝塔・時澤の仁王と多宝塔・萩林庵の阿弥陀像・原西の阿弥陀像

○平成２１年1月２１日(木)
（1班中央消防署：6施設　９：３０～）
妙安寺の国認定重要美術品3幅・県指定重要文化財梵鐘他・前橋藩松平家奉納装束一式・酒井重忠画像・八幡宮文書(一巻九通)・伯牙弾琴鏡・臨江閣本館・茶室・別館・典籍前橋藩松平家記録(404 冊)・酒井家資料(129 点)前橋祇園祭礼絵巻(二巻)。

（2班中央消防署：6施設　１３：３０～）
神明宮の甲冑・奈良三彩・東福寺鰐口・松平藩主画像他一件・旧蚕業試験場事務棟・上泉郷蔵附上泉文書・上泉の獅子舞・石造薬師三尊立像



防火査察風景

電気系統査察風景

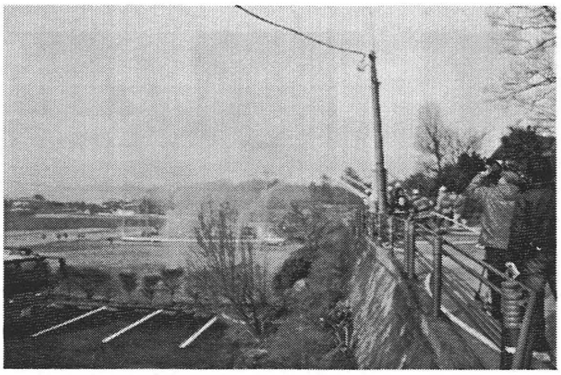
イ　文化財防火訓練

富士見町石井「珊瑚寺」境内で多宝塔、板碑の見学者による、タバコの投捨てにより本堂北側の雑木林から出火、関係者の初期消火活動にも拘わらず本堂に延焼拡大したもの。また、初期消火活動中に1名の負傷者が発生したものを想定した防火演習で、群馬県防災航空隊のヘリコプターも出動し延焼拡大を防いだ。さらに猛火から負傷者の救出演習、担架に載せて病院へ搬送する実際さながらの訓練も披露された。

○平成２２年1月３１日(日)
午前１０時００分から午前１１時００分まで
会　　場　前橋市富士見町石井１２２７番地
「珊瑚寺」

珊瑚寺内にある指定物件
①市指定文化財板碑
②市指定文化財多宝塔
計2件

参加機関
前橋市消防局、各消防署、前橋市消防団第6方面団(第１９・２０分団)、群馬県防災航空隊。(演習参加者９７名)

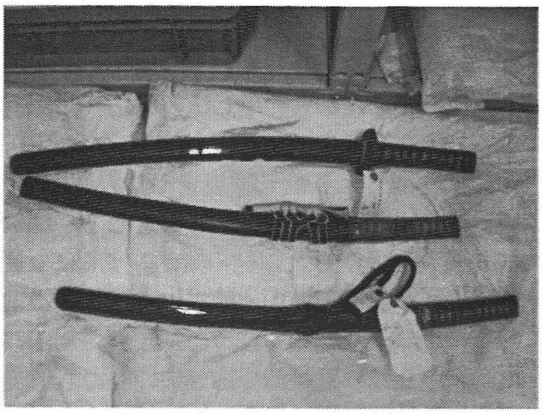


消防訓練

③　刀剣の手入れ

本市が寄附受入を行った刀剣を良好な状態で保存するために、専門的な技術者による手入れを行った。今年度は、例年通り、9月と2月に手入れを実施した。

手入れの中で見つかった錆のある刀一振については、次年度に委託業務として研ぎを行う予定である。



前橋市所有の刀剣

(4)　前橋市蚕糸記念館の管理・活用

県指定重要文化財である旧蚕糸試験場事務棟を活用し、管理を前橋市シルバー人材センタ

ーに委託し、前橋市蚕糸記念館として開館している。建物内に４展示室（①開所当時の様子を示す資料②はき立てから繭出荷までの養蚕具③上州座繰器をはじめとして製糸業に用いる用具器械④機織り機や養蚕信仰の資料）を設けて資料を展示し、蚕糸業とともに歩んできた前橋の近代化を偲ぶ記念館として公開している。

本年度は、敷島ばらまつり・ばらフェアーに伴い開館し、８，８０６人の見学者があった。

また、蚕糸記念館のパンフレットを英語の解説文を加え最新の内容に一新した。

ローズクィーンの座繰り体験

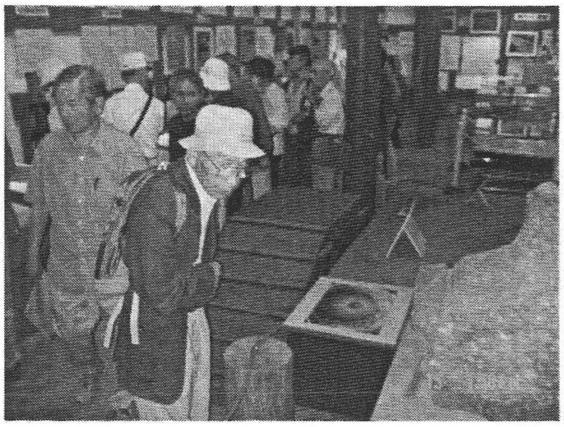
(5)　総社資料館の管理・活用

平成２１年度の開館日数は２３９日、来館者数は４，７７３人であった。本年度は、秋元歴史まつりの武者行列がない年ではあったが、ＪＲ主催の「駅からハイキング」のコースに何度か組まれたことにより、来館者を若干昨年度よりも増やすことができた。来館者の中心は小学生で、天狗岩用水や昔の道具の学習、さらには古墳の見学を目的として、２，９３０人が訪れ、昨年度より２００人以上の増加となった。また市外小学校からの申し込みもあり、周知度が増してきていることが窺える。

毎年開催される秋元歴史まつりの文化財の展示は、本課埋蔵文化財係の協力の下、「平成21年度寄付を受けた遺物の展示」「蒼海（１３）の遺物展示」、「宝塔山・蛇穴山最新発掘報告」等を特別展示展として行った。今回も引き続き、富岡製糸場世界遺産伝導師協会の協力も頂き、「座繰り体験教室」も行い大変好評であった。

３月には、説明員市外研修を奥多野（神流町・上野村）で実施をした。県指定「阿弥陀三尊画像板碑」、「神流町恐竜センター」、国重文「旧黒澤家住宅」等の指定文化財及び資料館の見学を通し、施設や文化財に対する見識を深め意義ある研修となった。

資料館の施設管理の面では、西倉の蛍光灯修繕、トイレの水道管工事を行い、環境整備に努めた。



見学者で賑やぐ総社資料館展示室

(6)　前橋市粕川歴史民俗資料館の管理・活用

粕川歴史民俗資料館は、大胡・宮城・粕川・富士見地区などの赤城山南麓地域の歴史や民俗が学習できる施設として活用している。

今年度は３回の企画展を開催し、多くの市民に関心を持っていただくことをねらった。開館日数は 218 日、入場者数合計は 1,422 人を数えた。

日常管理としては、臨時職員を配置し、来館者への展示の案内、施設の管理などを行うとともに、警備保障や定期清掃・浄化槽点検・空調設備点検・電気設備点検などについては専門業者に業務委託をして、来館者に快適に見学ができるような配慮をした。

５月２２日より粕川アートフェスティバルが開催された。毎月２階学習室において粕川古文書勉強会・粕川町歴史散歩の会が利用している。また、７月３０日長岡市教育委員会・公民館運営委員会が視察に、１０月１６日大胡東小学校、他にデイサービスたなぼ・上佐鳥町自治会・城山幼稚園が見学に訪れている。

＜企画展概要＞

①「前橋の獅子舞」

○期間　４月２５日～６月７日

○内容　前橋市内には１２の獅子舞が残されています。そのうち、５団体から獅子カシラを借用し、解説を加えると共に展示を行った。また、併せて、前橋市内の郷土芸能を紹介する展示を行い、来館者に前橋の郷土芸能を紹介した。

○入館者数　５４８人

②「前橋の縄文土器・八木孝男の縄文土器」

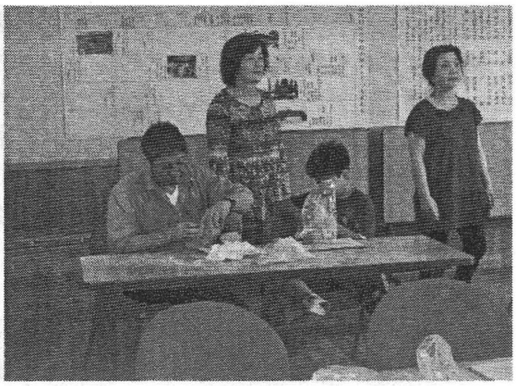
○期間　７月１８日～９月２３日

○内容　この企画展の展示は前橋市内から出土した、さまざまな縄文土器に焦点をあてた。前橋市内で出土した縄文土器と市内在住で縄文土器やハニワの製作復元をライフワークとして取り組んでいる八木孝男氏の作品を対照的に展示した。また、ぐんま古墳・はにわフェスタ開催に伴う県立博物館との共同企画で、第一展示室入り口に月田地蔵塚古墳出土埴輪（貴人・巫女・馬）を展示した。
また、８月８日（土）には八木孝男氏を講師に迎え、粕川資料館２階学習室を会場に「八木孝男さんと土偶を作ろう」と題して土偶教室を開催した。

○入館者数　３８６人

○関連企画

・「八木孝男さんと土偶を作ろう」
８月８日（土）
参加者製作の土偶展示期間
８月１８日～９月２３日



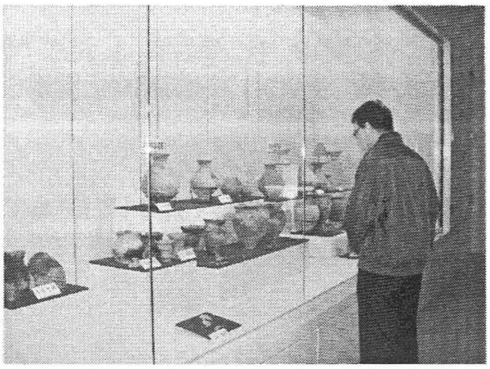
参加者土偶作製中

③「前橋で米つくりが始まる頃
―前橋の弥生土器―」

○期間　１０月３１日～３月２８日

○内容　この企画展の展示は前橋市内出土の弥生土器を通して、前橋市で米作りが始まる頃を概観した。
　これまで、あまり目に触れる機会がなかった前橋の弥生土器を展示するとともに、併せて水田跡、木製品などの展示し、弥生時代の前橋を明らかにした。

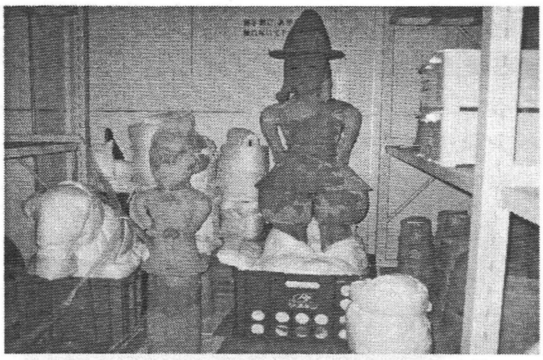
○ 入館者数　３９８人



「前橋で米つくりが始まる頃
―前橋の弥生土器―」展

(7)　前橋市粕川出土文化財管理センターの管理・活用

　管理センターを群馬県緊急雇用創出基金事業関連で大胡埋蔵文化財収蔵庫の出土遺物の台帳化業務での事務所として利用した。
　施設内には出土遺物が保管されているため警備保障、昇降機、浄化槽点検等は、業務委託により引き続き管理を行っている。



管理センターで保管している出土遺物

(8)　大室公園史跡の管理・活用

　一般公開している大室古墳群について、史跡の日常管理を行うにあたり、石室入口の鍵開閉や出土遺物を復元展示した史跡の保守・点検・清掃等を行う者を地元から選出して、史跡管理業務を委託した。
　群馬県内外から多くの見学者が訪れる公園内の古墳群であることから、市民ボランティア「古墳の語り部」が史跡案内等を行なっている。
　６月１３日に開催された大室イベントでは、富岡製糸場世界遺産伝道師協会伝道師による座繰の体験を行い、多くの参加者を集めた。

イ　管理業務実施日は以下のとおりである。
　４月から１１月まで:月曜日を除く毎日。
　１２月から３月まで:土・日・祝日。

前二子、後二子石室鍵開け 午前９：００
前二子、後二子石室鍵閉め 午後４：００

ロ 点検場所

1．前二子古墳 2．中二子古墳 3．後二子古墳
4．付小古墳 ※清掃は石室開閉時に実施している。

ハ 年末年始休業

１２月２７日(土)から１月４日(日)まで

大室公園全景

(9) 大室公園民家園の管理・活用

民家園は赤城型民家保存会という地元の組織に管理運営を委託している。

平成２１年度開館日数は２３６日、民家園来園者数は記帳者の確認だけで３，６４９人となっている。６月１３日に開催された大室イベントではスタンプラリーの会場とともに、ふかし饅頭の体験会場が開催された。

民家園

(10) 臨江閣の管理・活用

平成２０年度から臨江閣の管理活用は、生涯学習課から文化財保護課へ替わった。これまで臨江閣は中央公民館の別館として利用されていた。明治時代に建てられ指定文化財になっている建物の保護と文化財としての普及活用を主眼としたため、所管換えが行われた。

日常管理については、管理人を２名常駐させ、館内外の清掃と見学者の受付を行った。この管理人は、前橋市シルバー人材センターへ委託した。このほかに管理業務の委託では、機械警備業務、消防設備保守点検、雨樋及び屋根清掃を業者委託した。なお、庭内の樹木は、一括管理が効率的判断し、公園管理事務所へ管理の依頼をしている。

施設の活用では、９月５日から文化財保護課主催で平成２１年度臨江閣活用事業企画展「前橋空襲と都市の復興」を開催した。また１０月１８日に関連イベントとして「ミュージカルで描く前橋空襲」を開催し１２０名の入場者があった。

また、４月５日着物文化の講演会を皮切りに春を中心に４～７月は3団体がお茶会を開催し、他の団体において中学校囲碁将棋大会・小中学校教員研修会・座禅研修会・団体記録映画撮影・イベント及び講演会等で利用があった。８月には前橋工科大学主催のほたる鑑賞会があった。９～１２月は秋を中心として４団体がお茶会を開催した。また、中学校囲碁将棋大会・百人一首大会・新人教員研修会・テレビのドラマ撮影・国際交流事業で婦人団体が茶道や華道等日本文化を紹介する場として利用した。１２月には日仏協会設立総会が行われた。２・３月には、市民の寄贈による雛人形を展示し好評を博した。その他の活用として附属小や大学・各種学校の学習見学・他市議会の視察・市内外の自治会及び各種団体の視察見学や各種イベント・大手や小中旅行会社の観光見学、結婚企画会社や写真館の記念撮影会、雑誌・企画会社の撮影等で利用された。そして平成２１年度の臨江閣への入場者数は、９月と２月に大手旅行会社の企画旅行のコースになったこともあり、１５，５１８人を数えた。

今年度は今までのパンフレットを一新し、英語解説文も加えたカラーパンフレットを作成した。

「前橋空襲と都市の復興」展

2　整備事業

(1)　前橋市史跡整備委員会

平成１８年度に発足し、４年目を迎えた前橋市史跡整備委員会は、本年度の事業として前橋市内の史跡整備に向けた提言書の作成を中心に行った。

昨年度まで各史跡の具体的整備方針を検討してきたが、提言書を作成するにあたり、提言を行う理由や目的など提言書の根拠となる部分についても検討を加える作業を行った。

①　第５回前橋市史跡整備委員会

ア　開催日及び会場
平成21年６月26日
前橋市役所３階 31会議室

イ　出席者　峰岸顧問、阿久津委員長、能登副委員長、小島委員、教育長、財務部長、都市計画部長、建設部長、管理部長、総務課係長、事務局（文化財保護課）

ウ　内容
事務局より提言書の骨子案を提示し、提言書の組み立てや内容について協議・検討を加えた。

主な意見
・整備が完了している大室古墳群について再評価をすることで、今後の整備の方向性が見えてくるのではないか。
・史跡整備事業を市や教育委員会の全体構想の中の一つに位置づけ、史跡の活用策やそれを実現する整備方法を検討することが必要だろう。
・史跡整備の実現に向けて、全庁的な議論が必要。その際、施策的効果や経済的効果を訴え、文化財以外の各部署にも有用な事業であることをアピールし史跡整備に具体的根拠を持たす。
・費用対効果など説得性のある整備案も検討する。また、多くの人たちの要求に応えられるような整備案を検討すべきである。

②　提言書素案検討会

ア　開催日及び会場　平成21年11月13日
前橋市教育委員会文化財保護課 東会議室

イ　出席者　峰岸顧問、阿久津委員長、能登副委員長、小島委員、飯森委員、事務局（文化財保護課）

ウ　内容
事務局より提言書（素案）を提示し、その内容について協議・検討を加えた。

主な意見
・提言書の構成については、提言の部と付編の部に分けて分りやすくしたほうが良い。
・図や写真を多く用いて見やすい内容にすべきである。
・文化財保護法その他の国の法律や前橋市の各計画の趣旨を明示して、史跡整備事業との関連性を具体的に述べる。
・提言書の内容は簡潔に分りやすくする。

③　第６回前橋市史跡整備委員会

ア　開催日及び会場　平成22年２月12日
前橋市役所３階 31会議室

イ　出席者　峰岸顧問、阿久津委員長、能登副委員長、飯森委員、管理部長、総務課長、事務局（文化財保護課）

ウ　内容
事務局より提言書素案（修正版）を提示し、その内容について協議・検討を加えた。

主な意見
・表やグラフ等を使って、第三者にも分りやすく、大事な部分はゴシック等で表記する。
・大胡城、膳城などの中世城郭についても整備スケジュールを立てるべきである。

また史跡整備を進めていくうえで、事務局がとるべき動きについて、以下のような指摘があった。

○整備予算について
・整備事業について文化庁の採択を得るためには、市としての整備に向けた姿勢を高めていくとともに、予算が付いたら直ちに整備に着手できるような準備を進めておく必要がある。

○学校教育との連携体制について
・社会科副読本や地域教材の作成について、学校の先生と文化財サイドで共同作業が行えるよう、文化財保護課から提案してはどうか。

○情報発信について
・見学者用のパンフレットを作り、そこに史跡だけでなく、前橋市内のホテルや温泉などの観光情報を盛り込む。
・大室古墳群公開・普及イベントを、一泊二日で楽しめるような地域イベントとして開催する。

○博物館・資料館について
・前橋市には博物館がないが将来的には必要である。
・そのときに一極集中型の博物館を市内中心部に造るのか、分散型の展示施設を観光コース上に何箇所か配置するのか、検討する必要がある。

○中世城郭について
・指定史跡ではないが前橋城や蒼海城は将来的に整備対象として検討すべき重要な遺跡である。
・前橋の中世城館遺跡を赤城南麓城跡群として

捉え、長尾氏と上州一揆が造りだした赤城南麓の城跡遺跡というコンセプトで国指定を目指してはどうか。

(2) 保存整備事業

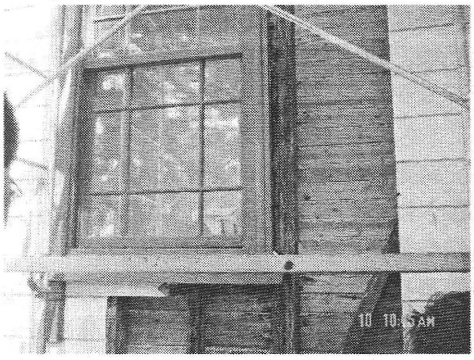
① 蚕糸記念館保存修理事業

正面玄関脇の外壁に腐食があり、この影響により内壁にもひびが生じていることから、補修工事を行った。また、床下に黒蟻の巣が確認されたことから、薬剤散布を実施し、点検口を設置した。

ア 工事概要

外壁及び構造材の腐朽部分の交換
黒蟻被害箇所の薬剤散布
床下点検口の設置

イ 事業費　　829,500円
(内訳)
県補助金　　276,000円
市負担金　　553,500円



蚕糸記念館外壁工事

② 臨江閣保存修理事業

本館北廊下雨戸敷居の腐朽や、賄所屋根瓦のズレによる雨漏り等があったことから、補修工事を行った。

ア 工事概要

北廊下窓敷居の取替
広縁床の補修
賄所屋根瓦部分の補修
階段下り口平框の補修
２階廊下床板の補修
西階段手摺の補修

イ 事業費　　724,500円
(内訳)
県補助金　　241,000円
市負担金　　483,500円

(3) 文化財説明板の整備

① 富士見地区案内板等の書替

富士見村教委が設置した文化財案内板等について、合併に伴い設置者等の書替を行った。

ア 工事概要

案内板の書替（２箇所）
説明板の書替（12箇所）
案内標識の書替（４箇所）

イ 事業費　　100,800円

② 市指定文化財説明板の書替

劣化により説明が読めなくなった２箇所の説明板の書替を行った。

ア 工事概要

酒井氏重忠画像（源英寺内）及び旧関根家住宅（大室公園民家園内）の説明板の書替

イ 事業費　　346,500円

③ 市指定文化財説明板の設置

新たに市指定を受けた文化財２箇所について、説明板を設置した。

ア 工事概要

五代大日塚古墳及び大胡神社に説明板の設置。なお、大胡神社は新指定のムクロジのほか、市指定である算額、太々神楽の舞についても説明を併記した。

イ 事業費　　640,500円

(4) 史跡の測量

膳城跡の現況測量

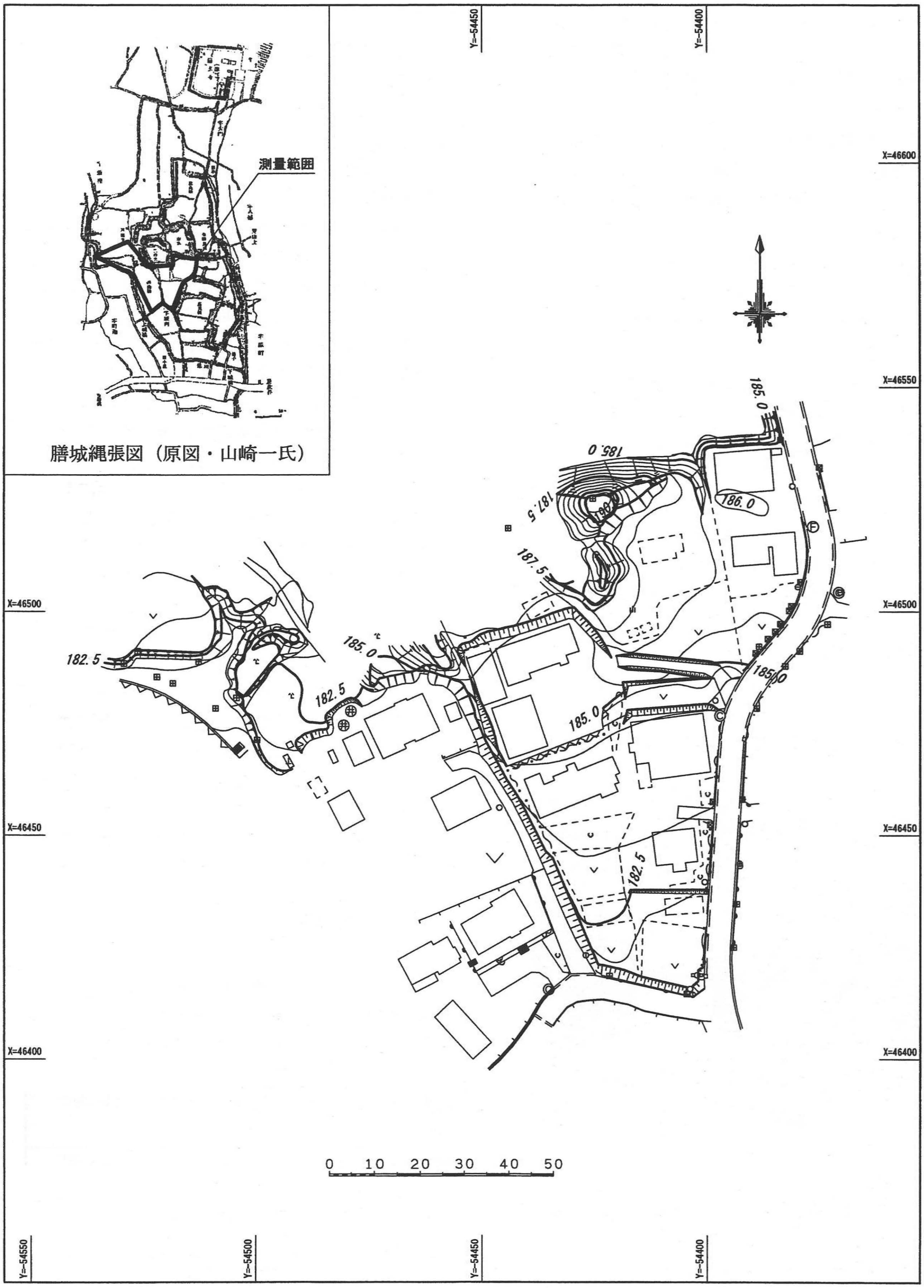
業 務 名　膳城二の丸周辺平面測量業務
実施期日　平成２２年３月３日～２５日
測量内容　二の丸南半部と西曲輪の一部を1/500の縮尺で現況測量を行った。
対象面積　約7,800㎡

粕川町膳に所在する群馬県指定史跡「膳城跡」は、本丸・二の丸周辺の主要曲輪が現況で良好に遺存している中世城郭遺跡である。その保存と活用を図るための基礎資料として、平成１５年度から現況測量を継続している。本年度の測量により、膳城の主要部分の測量をほぼ終了した。

（測量図は１７頁に記載）

膳城本丸跡

膳城二の丸周辺部　平面測量図



3 普及事業

(1) 前橋市・高崎市連携文化財展

前橋・高崎連携文化財活用事業として、文化財展「東国千年の都－前橋・高崎の縄文時代－赤城・榛名の縄文絵巻」を開催した。

① 内容

前橋・高崎両市域に人々が初めてムラをつくり定住生活が始まった縄文時代を取り上げ、両市の遺跡から出土した縄文土器等を一堂に介して展示した。

展示テーマ（展示内容）

第１部 さまざまな文様とかたち

1 縄文土器のうつりかわり（時代毎の土器の展示）

2 文様をつける（文様の体験コーナー）

3 かたちと使いみち（土器の器種の紹介）

第２部 縄文土器を使った時代

1 縄文の始まるころ（旧石器から縄文へ）

2 縄文のくらし（縄文時代の生業）

3 縄文のこころ（縄文時代の精神文化）

第３部 前橋・高崎の縄文時代

（五代伊勢宮遺跡、高崎情報団地遺跡ほか両市の主要遺跡の紹介）

② 期日・会場

・前橋会場 平成２２年1月９日～１８日
前橋プラザ元気21

・高崎会場 平成２２年1月３０日～２月８日
高崎シティーギャラリー

前橋会場

③ 結果

来場者数は総計で5,241人であった。うち前橋会場は3,889人で、開催日数が減ったにもかかわらず来場者数が増え、連携文化財展も定着してきたと考えられる。前橋会場の関連企画として、1月17日にまが玉と石器づくり体験を行い、28人の参加者があった。

立体的な文様に富む縄文土器を中心とした展示は、多くの人の関心を惹き、好評を得ることができた。

(2) 第37回前橋市郷土芸能大会

① 日時

平成２１年１１月２１日

② 会場

前橋市民文化会館 小ホール

③ 内容

前橋市内の５団体と、近隣市町村からの招待団体の計６団体の公演が繰り広げられた。近隣市町村からの招待は、団体同士の交流と研鑽を目的に、一昨年度より始められ、恒例行事となった。平成２１年度は、沼田市教育委員会社会教育課文化財保護室に出演の推薦依頼（５月）をし、同委員会のご協力のもと沼田市指定重要無形民俗文化財「沼須人形芝居（沼須町）」のご公演をいただいた。また、恒例行事の一つになっている抽選会も実施。これは大会における余興的な要素を持たせつつ、最後の公演まで活気を持たせるためや、より多くの方に会場に足を運んでもらうきっかけになればというねらいのもと実施されている。市内外から２２の企業・団体からご協賛を頂き、当選本数も、約１１０本となり、盛大に抽選会を開催することができた。また、今年度は、マスコミ各社の後援協力を頂き、広報活動積極的に行った。これらの取り組みにより、観客の公演ごとの増減が少なくなり、最後まで鑑賞してくださる方もかなり増えた。

大会全体の所要時間は、各出演団体の協力により、ほぼ時間通りに進めることができた。今後は、進行が、よりスムーズになるよう、工夫と努力を加えていきたい。

《出演団体一覧》

郷土芸能の名称	保 存 会 名	所在地
伊勢音頭	泉沢人形芝居保存会	泉沢町
駒形神社太々神楽	駒形町太々神楽保存会	駒形町
駒形上町の祇園	若獅子会	駒形町
沼須人形芝居	沼須人形芝居保存会	沼田市沼須町
裸みこし	南町二丁目自治会・水神社氏子会	南町二丁目
大前田諏訪神社の獅子舞	大前田諏訪神社獅子舞保存会	大前田町

駒形神社太々神楽【駒形町太々神楽保存会】

(4) 普及啓発

① 文化財探訪

この事業は、郷土の文化財や伝統芸能等を市民の皆様に広く知っていただくことを目的に、平成１５年度より開始した。平成２１年度は、９月と３月に実施、このうち第１回目は、古代の文化遺産に触れる探訪で山王廃寺発掘現場や総社地区の古墳、上野国分寺跡等を見学した。第２回目は赤城南麓の歴史探訪で旧アメリカン・ボード宣教師館、二宮赤城神社、大室公園内の旧関根家住宅及び大胡駅を見学した。大胡駅ではデハ101に乗車体験等をした。

〈第１回目〉

日　時　９月１５日（火）13時30分～17時
案　内　文化財保護課職員、総社資料館説明員、上野国分寺ガイダンス施設説明員
参加者：３３名
コース：利根西の歴史をめぐる施設見学
「白鳳時代に思いを馳せて」

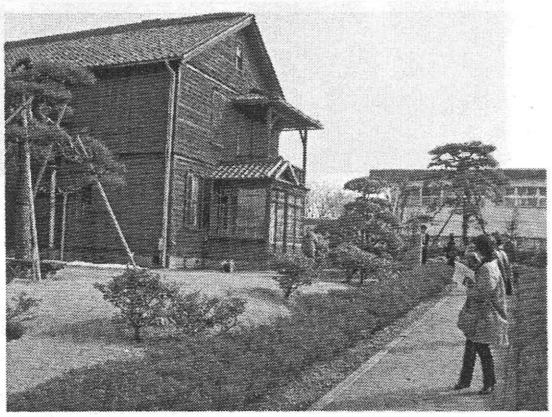
総社資料館→光巌寺・宝塔山古墳→山王廃寺及び発掘現場→上野国分寺跡

上野国分寺跡での見学風景

〈第２回目〉

日　時　３月１２日（金）13時30分～17時
案　内　共愛学園教諭、二宮赤城神社宮司、古墳の語り部、上毛電気鉄道社員
参加者　３８名
コース　赤城南麓の歴史めぐり
…歴史の香りに誘われて…

旧アメリカン・ボード宣教師館→二宮赤城神社地→旧関根家住宅→大胡駅舎及び関連施設



アメリカン･ボード宣教師館の見学風景

② 出張授業「おもしろ文化財教室」

小中学校の社会科や総合的な学習の時間などにおいて、本課職員が講師として授業を行うものである。依頼を受けた、学校の担当教諭と事前打ち合わせを行い、その中で、授業のねらいや留意点などをできるだけ詳細に確認し、児童・生徒たちにとって充実感・達成感のある授業をめざし実施した。今年度は、７校６２３名に対応した。

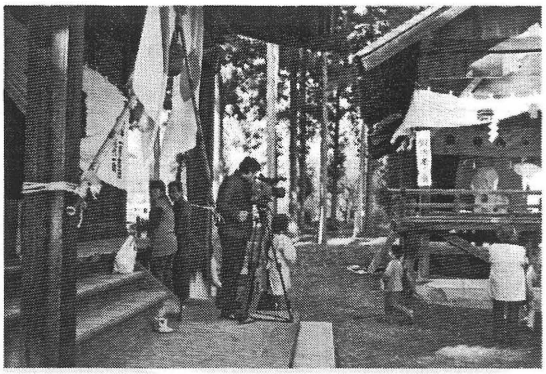
《実施概要一覧》

実施日	学校名　学年	実施内容（実施場所）
5/2	嶺小６年	大室古墳群見学
5/15	滝窪小６年	円筒埴輪づくり
5/28	粕川小６年	大室古墳群見学
〃	伊勢崎宮郷第２小　４年	大室古墳群見学
6/4	玉村芝根小４年	大室古墳群見学
10/16	大胡東小４年	昔のくらし（粕川資料館）
10/21	永明小４年	社会科授業「下長磯操翁式三番叟」について講話

③ 郷土芸能映像記録保存（ＤＶＤ作成）

郷土芸能映像記録保存事業は、平成８年度から始まり、昨年度までに16芸能の撮影を行った。今年度は、10月12日に込皆戸操り人形式

三番叟の撮影を行った



撮影の様子

④　文化財資料の貸出

今年度も他市や出版社等から依頼を受け、写真資料等の貸し出しを行った。

主な貸し出し資料と貸し出し先は、以下の通りである。

貸し出し資料	貸し出し先
蛇穴山古墳石室入口写真（ポジフィルム）	ひつじ大学運営委員会
火おこし用具セット	大室ＫＡＺＥの里協議会
木銃・焼夷弾片・あたご湯の溶けたガラス	前橋市立永明小学校
大室古墳群と前橋市蚕糸記念館（画像データ）	(有)グルーポ　ピコ
日輪寺所蔵十一面観音立像の全体像（画像データ）	豊田市教育委員会
金冠塚古墳外観写真（画像データ）	安中市教育委員会
蚕糸記念館（画像データ）	上武印刷㈱
赤城不動大滝・横室の大カヤ・旧関根家住宅・群馬会館・群馬県庁本庁舎・臨江閣別館・沼の窪のザセンソウ・山王廃寺跡・蛇穴山古墳・中二子古墳・総社本上野国神名帳（画像データ）	ＮＰＯ群馬情報メディア機構
無量寿寺十一面観音立像（画像データ）	㈱上毛新聞社

⑤　各種講座・文化財めぐり等への講師派遣

指定文化財や遺跡などについて市民が理解を深められるよう、本課職員や各資料館解説員、市民ボランティアが案内を行った。

○講師派遣

・対応団体数　２２団体

・参加者のべ人数　７１２人

・説明、案内箇所等

大室古墳群、臨江閣

蚕糸記念館、粕川歴史民俗資料館

大胡城、総社資料館、総社古墳群

山王廃寺（講演）

○出前講座（生涯学習課事業）

本課として３つの講座を設定し実施した。また、今年度は、学校からの要請により出張授業とは別に出前講座を行った。

・「明治のイギリス外交により見出された大室古墳群」

３団体　１８１名

・「古代の東国に咲いた華・山王廃寺」

４団体　４８１名

・「文化財のあらましと保護行政について」

１団体　　３０名

(5)　公民館･資料館連携事業

歴史や文化財に関する体験学習や文化財の見学等を各公民館や資料館と共同で開催し、市民が郷土の文化財に直接触れ、楽しみながら歴史を学習することを目的に実施した。講師として本課職員や外部依頼講師が対応した。

また、本年度は各公民館による本事業の利用の促進を図るために、各公民館宛に体験学習など企画内容の案内パンフレットを配布した。

	日時・主催	内　容	参加数
1	平成21年 ８月12日 10:00～11:30 大胡公民館	高齢者学級「こぶし教室」 （大室古墳群見学） 会場：大室公園 講師：本課職員	高齢者 一般 45人
2	平成21年 ８月27日 9:30～11:30 粕川公民館	粕川地区少年教室「おおむかしの生活にふれる教室」 （埴輪づくり） 会場：粕川歴史民俗資料館 講師：本課職員	親子 30人

3	平成22年 1月18日 10:30～15:30 文化財保護課	連携文化財展関連企画「体験!! 縄文のこころとくらし 縄文時代の石の道具 まが玉と石器をつくろう」 会場：中央公民館 講師 まが玉づくり ：本課職員 石器づくり ：岩宿博物館 小菅将夫氏	一般 28人

(7) 大室古墳群公開・普及イベント2009
“前二子古墳　石室よみがえるⅡ”

① 趣旨

平成16年に整備事業の完了した大室古墳群を歴史遺産として広く市民に周知し、活用促進を図り、もって文化財の愛護精神の高揚を図ることを目的に開催した。イベントでは、平成18年度から20年度まで実施した「前二子古墳石室復元市民プロジェクト」事業で制作した、前二子古墳石室出土品の複製品完成を記念し、石室内へ制作品を収納する「おさめの式」を行った。

また、市民ボランティア解説員「大室　古墳(つか)の語り部」による古墳見学会を行うなど、市民による大室古墳群活用の成果を披露した。さらに各種体験イベントやスタンプラリー、郷土芸能等の公演を行った。

② 開催日

平成２１年６月１３日

③ 内容

ア　記念式典「おさめの式」（市民ボランティア製作土器を、前二子古墳石室におさめる式典）、育英短期大学和太鼓部の演奏、立石諏訪神社の獅子舞の上演

イ　市民ボランティア解説員の会「大室　古墳（つか）の語り部」による古墳案内

ウ　古墳めぐりスタンプラリー

エ　体験コーナー（まが玉づくり、火おこし体験、座繰り体験）

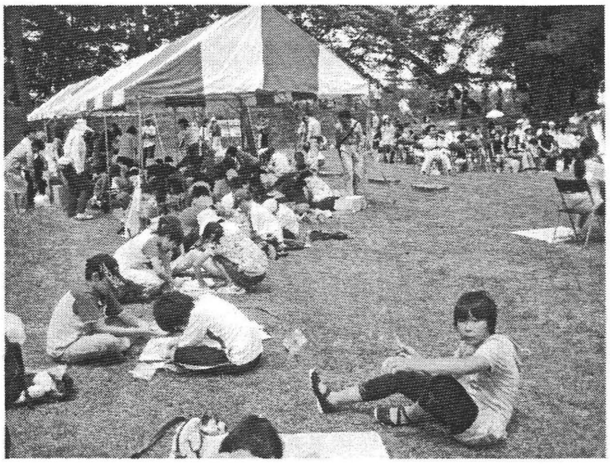
オ　アトラクション（荒砥中学校吹奏楽部、育英短期大学和太鼓部の演奏）

カ　「ふかしまんじゅう」をつくろう（宮城地区老人会婦人部）

キ　観光物産品の販売

④ 開催結果

当日は、好天に恵まれ1,100人以上もの見学者及び参加者があった。アンケートにも「来年度以降も継続して開催して欲しい」などの意見があり、イベント開催については概ね好評であった。



火おこしにチャレンジだ！

(8) 大室古墳群市民ボランティア解説員の育成

市民の視点に立った文化財・史跡の普及活用を目指し、市民ボランティア解説員の会「大室古墳（つか）の語り部」が活動を開始し４年目にあたる。５月から１０月までの定例説明会のほか大室イベント、大室KAZEの里への協力など、今年も積極的な活動を行った。また、年度末には今年度の総括と来年度へ向けての活動計画や組織・役割 分担についての話し合いが持たれた。

① 古墳見学会

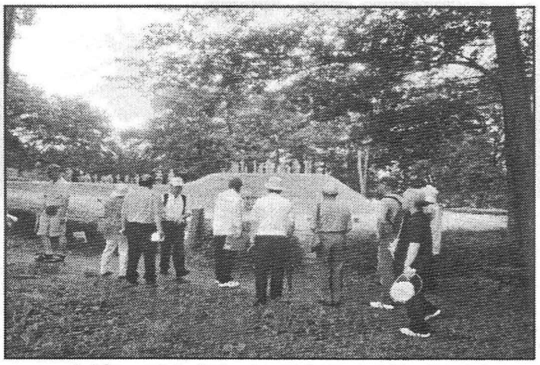
・定例説明会（５月～１０月の主に第１土曜日）
民家園を待機所として希望者が集まり次第、グループに分け案内。
見学者　計９８名

② 自治会、歴史愛好者団体等への案内

・１１団体へ実施
見学者　計３０５名

③ 各イベント等への協力（古墳案内）

・　６月１３日　大室古墳群イベント
・　８月２２日　大室KAZEの里協力
・１０月２５日　大室KAZEの里協力
見学者　計７９名



古墳の語り部による大室古墳の説明

(9)　文化財保存団体育成補助

総社地区および荒砥地区において、その地内に残る文化財の説明板や標注の設置を継続的に行っている団体や市内各所で活動している郷土芸能保存団体に補助金を交付した。また、県指定文化財「上野総社神社本殿」において、本殿西側屋根の柿葺の損傷や東側壁面の塗りの剥落等により下地が見える状態などに対して、参拝者及び見学者の安全の確保と文化財の保存と継承を目的として、補助事業での助成を行った。交付対象団体は、以下の通りである。

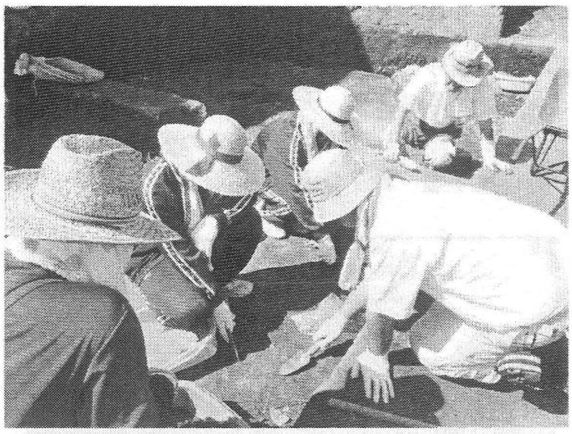
○総社地区史跡愛存会
○荒砥史談会
○横室歌舞伎保存会
○前橋市郷土芸能連絡協議会
○宗教法人　総社神社
○阿久沢家住宅

(10)　職場体験学習

今年度は３校と青少年課より依頼のあった不登校傾向生徒の体験学習を受け入れた。元総社蒼海遺跡群等の発掘現場で発掘を体験してもらった。

実施の概要は以下の通り。

○９月　８日～　９月８日
木瀬中学校　　第２学年　２名
○９月３０日～１０月２日
第一中学校　　第２学年　１名
○１０月６日～１０月８日
第五中学校　　第２学年　５名
○１２月２日～１２月４日
不登校傾向生徒　　　　　４名


体験学習風景

(11)　文化財調査事業

①　前橋市近代和風建築悉皆調査

ア　調査の目的

前橋市内に所在する近代和風建築については、市内全域を網羅するような調査は実施されておらず、近年その文化財的価値が定まらないままに滅失してしまうものも多い。これら市内の近代和風建築について、文化財としての価値判断を行い、保存対策上必要な措置を講じるために台帳化を図ることを目的に当該建物の所在調査を悉皆的に実施した。

イ　調査の概要

・調査期間
　平成２１年９月～平成２２年３月
・調査対象
　明治初年～昭和20年頃までに、日本の伝統様式・技法によって建てられた木造建築物。
・調査方法
　緊急雇用創出事業として前橋市教育委員会が調査主体となり、近代和風建築について専門的な知識を有する民間の団体に調査を委託して実施。
・調査内容
　前橋市内の地区毎に当該建物の所在調査を行った。該当物件については保存状態を確認するとともに、建物外観の写真撮影を行い、さらに地図上で所在を示して台帳化を図った。

ウ　調査結果

今年度は、粕川、富士見地区を除く市内全域で調査を実施した。その結果、約4,000件の該当建築物について所在を確認し、写真等の基礎的なデータを得ることができた。

エ　今後の予定

来年度も、引き続き緊急雇用創出事業として事業の採択を受けている。来年度は今年度未調査地区についての悉皆調査及び寺社建築の調査のほか、第１次調査成果を基に重要遺構を選択し、詳細な写真撮影や聞き取り調査を行う２次調査を実施する予定である。

(12)　山王廃寺範囲内容確認調査現地説明会

・日　時
　平成２１年１１月７日(土)
　午前１０時～午後３時
・場　所
　前橋市総社町総社2780番地１ほか
　(日枝神社内・発掘調査現場等)
・来場者数
　１７０名
・実施内容
　解説ポイント６ヵ所〔①日枝神社(塔心礎・石製鴟尾・根巻石)→②推定中門→③南面

回廊→④掘立柱建物跡→⑤都丸氏宅の石製鴟尾→⑥遺物展示」を巡りながら解説を行った。

１班１０名程度で順路を巡り、開始から終了まで概ね５０分間を要した。解説回数は計１７回を数えた。遺物展示では、過年度の発掘調査で出土した塑像や瓦、遺跡・遺物の解説パネル等の展示を行った。

・成　果

当日は好天に恵まれ、参加者は昨年に比べると６０名増えた。昨年・一昨年にも参加したリピーターが多く見られ、山王廃寺の現地説明会が定着しつつあると思われる。また、新たに参加される方も見られ、広報活動（市広報・ホームページの掲載、回覧・チラシ配布）の成果も見られた。

説明には、各種説明看板を掲示し、建物囲をロープや線で明示するなど、視覚的な情報を増やし、来場者に分かり易い説明を心がけた。

現地説明会を終えて、来場者からの質問や疑問、普段感じている文化財に対する想いを直接耳にすることができ、市民と行政のよい意見交換の場となった。

・課　題

現地説明会で高まった市民の文化財への関心を後退させないため、今後も定期的な発掘調査現場説明会や発掘調査速報展の開催など、積極的に調査成果を還元する必要がある。来場者には小中学生が少ないことから、山王廃寺を含めた遺跡や文化財全般について興味・関心を持ってもらうため、出前授業などを活用し、日頃から普及活動に努める必要がある。

○来場者へのアンケート結果

Q. 山王廃寺を知っていますか。
A. 知っている 66 人、知らない 13 人

Q. 塑像や瓦が出土したことを知っていますか
A. 知っている 51 人、知らない 28 人

Q. 現地説明会に来るのは何回目
A. 初めて 32 人、2〜3 回 21 人、それ以上 22 人

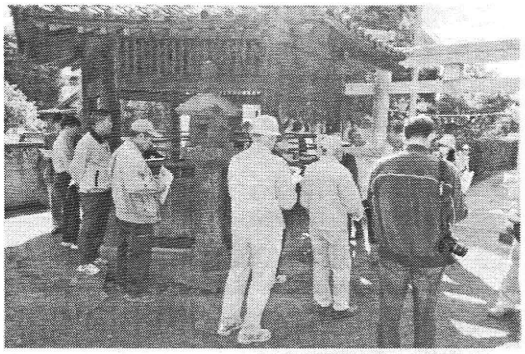
Q. 山王廃寺の説明会には来たことは
A. 初めて 31 人、ある 28 人

Q. 見てよかったもの
A. 日枝神社 42 人、中門跡 38 人、南面回廊 36 人、布掘りの建物跡と切石 54 人、出土品展示 28 人、その他 2 人

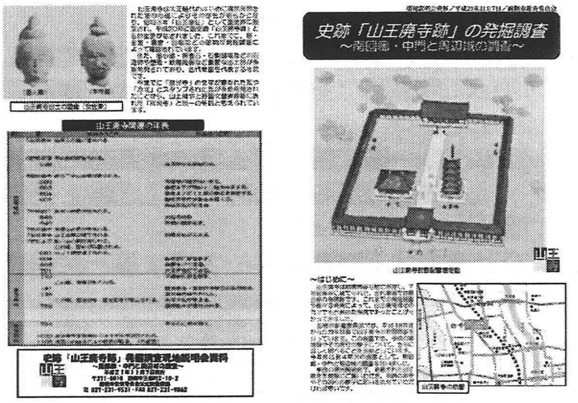
Q. お住まいは
A. 元総社地区 12 人、総社地区 22 人、市内 27 人、県内 14 人、その他 0 人

Q. 年齢は
A. 小学生以下 4 人、20 歳以下 9 人、40 歳以下 4 人、60 歳以下 22 人、61 歳以上 38 人

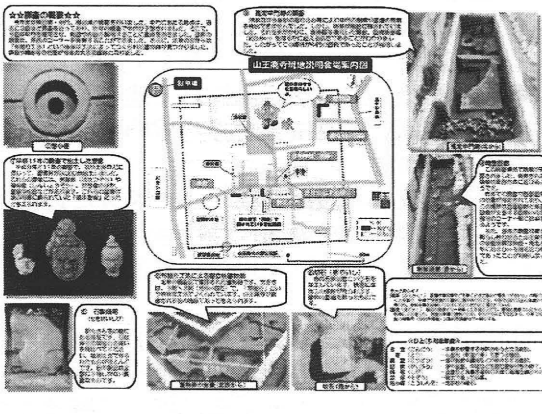
Q. 性別
A. 男 54 人、女 21 人



現地説明会風景



現地説明会パンフレット（表）



現地説明会パンフレット（裏）

4　埋蔵文化財発掘調査事業

平成２１年度埋蔵文化財発掘調査事業をふりかえって

１）発掘調査事業

詳細は、平成２１年度埋蔵文化財発掘調査一覧表(26頁を参照)に記載した通りである。本市の埋蔵文化財発掘調査は、基本的に前橋市埋蔵文化財発掘調査団を活用して実施した。その調査団の調査体制は、職員２名１組、３班体制とした。このほかに民間発掘調査機関を導入し、発掘調査をした。発掘調査件数は２２件で、市直営１、調査団直営４、民間発掘調査機関が１４件であった。残り３件は三者契約によった。総調査面積63,875㎡で、市直営682㎡、調査団直営6,948㎡、委託18,575㎡、三者契約37,670㎡であった。

①山王廃寺…平成９年度の下水道工事に伴う立会調査によって塔本塑像群が出土した。さらに平成１１年度、道路改良工事に伴い一部、塑像廃棄土坑について発掘調査を行った。この塑像群の発見が一つの契機となり、山王廃寺の重要性についてなお一層の認識が深まり、平成１２年度に「山王廃寺等調査委員会」が発足した。委員会では平成１７年度まで整備構想や調査計画の検討を行い、平成１８～２２年度までの５カ年事業として範囲内容確認調査を行うこととなった。

この調査によって今まで未解決であった主要伽藍配置の規模、内容、構造について解明がなされ、さらに平成２０年３月に国史跡の指定範囲拡大への動きとなった。

平成２１年度の調査によって、解明された点は以下のとおりである。

回廊範囲の確定…中門と南西回廊コーナーが検出された結果、回廊の規模が判明した。東西80ｍ・南北80mであることが判明した。

中門の調査…中門の規模は東西17.4m・南北６ｍの規模が想定できた。

南西回廊コーナーの調査…版築跡と据付用根石が検出され南西コーナーが確定された。

北東区域の建物跡群…40・41トレンチの調査を行った結果、従来の範囲を超えて掘立建物跡が検出された。①N30度に振れる建物②９世紀の住居跡③ほぼ東西に軸を持つ建物跡といった変遷がみられた。

②総社稲荷塚大道西遺跡…山王廃寺に近接するが寺院に関連した遺構は検出されなかった。それに引き換え、９世紀以降の集落跡が検出された。

③南部拠点遺跡群No.３～５…北関東自動車道の前橋南インター隣接地に大型ショッピングモール建設が計画された。平成20年に試掘調査を行った結果、ほぼ全域から浅間Ｂテフラに覆われた水田跡が検出された。建物部分については現状での保存をお願いしたが、建物工事との関係から発掘調査を回避できなかった。

南部拠点遺跡群No.３…Ｂゾーンの公共道路用部分の調査区。浅間Ｂテフラに覆われた水田跡が検出された。調査面積10,140㎡。

南部拠点遺跡群No.４…Ｂゾーンの建物部分の調査。24,525㎡。浅間Ｂテフラに覆われた水田跡のほか、榛名FA層テフラに覆われた6世紀の水田跡も検出できた。

南部拠点遺跡群No.５…Aゾーンの建物部分の調査。12,050㎡。

④元総社蒼海遺跡群(26)～(31)…元総社蒼海遺跡群の調査については、上野国府や国分尼寺などの施設の発見と解明、律令期の地域構造の解明が課題である。元総社蒼海地区土地区画整理事業に伴い、平成１１年度から開始された埋蔵文化財発掘調査も、平成21年度で11年目を迎えた。これまで関越自動車道と元総社市街地の間の水田と畑地の調査を進めてきたが、いずれも古墳時代から平安時代の竪穴式住居跡と蒼海城の堀が検出されてきた。国府に直接関連した遺構や遺物は検出されていない。このことから、上野国府の中心施設である国庁は、従来から言われている総社神社の北方である宮鍋様、御霊神社、蒼海城本丸のあたりが候補地として想定している。

蒼海(26)…調査団直営調査。調査面積4,058㎡。国分尼寺の西側調査区から「大館」と墨書された土器が発見された。国庁推定D案にあたる部分の直角に曲がる土塁の調査したが、近世以降であった。

蒼海(27)…中央幹線に伴う発掘調査。調査の結果、弥生土器の破片が散見したが遺構は未検出に終わった。古墳時代前期、後期の住居跡をはじめ９世紀からの集落構成および集落変遷が解明できた。掘立柱建物跡２棟が検出されたが、規模の小さいものである。

蒼海(28)…(27)と隣接する。中央幹線に伴う発掘調査。調査の結果、古墳時代前期、後期の住居跡、９世紀以降の住居跡が検出された。

蒼海(29)…昨年度の二の丸調査区に近接した調査区であったが、削平が多く遺構の検出もわずかに堀を検出したに終わった。

蒼海(30)…２地点に分かれた調査区である。１地点は集落跡であり、片方は中世の遺構が検出された。

蒼海(31)…国庁推定案Ａ案の北西部の調査を行った。残念ながら古墳時代の住居跡と蒼海城の堀の検出に留まった。

⑤上細井北遺跡群No.２…古墳２基と住居跡４軒の検出に留まった。調査区の南端にある牛子塚古墳については、墳丘測量の結果、墳丘長45ｍを超える前方後円墳であることが判明した。

⑥総社町屋敷南遺跡及び蛇穴山古墳・宝塔山古墳…古墳時代後期の住居跡を４軒。および蛇穴山古墳・宝塔山古墳について範囲確認調査を行

った。その結果、蛇穴山古墳については二重の周堀、中堤、また、墳丘のほか中堤に葺石が存在した。
宝塔山古墳については、周堀のコーナーが検出された。
⑦六供遺跡群№５…浅間Ｂテフラに覆われた平安時代の水田跡が検出された。一部耕作痕と思われる痕跡が見つかった。
⑧前橋城（南曲輪地点）…平安時代の住居跡２軒以上と前橋城の堀が国道17号線と平行して検出された。
⑨堀越甲真木№３遺跡…陥し穴が２基検出された。同一遺跡である大胡工業団地８基、工場建設2基検出されている。したがって今回をあわせると12基となる。
⑩女屋宮田遺跡…古墳時代前期住居跡と平安時代の集落を検出した。
⑪房丸桜町遺跡…平安時代の集落を検出した。
⑫山王若宮Ⅳ遺跡…６世紀代の帆立貝式古墳１基、古墳時代前期の包含層、平安時代の住居跡を検出した。
⑬民間開発に伴う調査
調査面積の少ない遺跡の調査を下記のとおり実施した。
ｱ **元総社屋敷遺跡**…30㎡、平安時代住居跡、土坑など
ｲ **山神遺跡**…88㎡。奈良～平安時代住居跡など
ｳ **箱田上境遺跡**…90㎡。平安時代水田跡
ｴ **胴城遺跡**…50㎡。古墳時代住居跡
ｵ **前橋城**…45㎡。前橋城堀跡、古墳（周堀）

２）遺跡台帳整備事業
文化財保護法第95条に規定されている埋蔵文化財包蔵地を把握し、周知するための遺跡分布地図作成に向けて平成15年度より分布調査及び資料整備を開始した。調査は前橋市全域を対象とし、調査地区を16ブロック（旧前橋12、旧町村４）に区分けし、さらに調査する１ブロックを一筆毎に分け詳細に現地踏査を行う。踏査・準備を詳細に行うには、作業に従事する人数はもちろん日数も必要である。
現地踏査の準備として、過去の調査履歴の地図への落とし込み、踏査後に遺物、図面整理にあたる。平成23年度を目標とした「前橋市遺跡分布地図」刊行に向けて、豊富な経験と技術を有する臨時職員を雇用し、計画的かつ効率的に進めている。平成21年度は富士見地区について実施した。

【前橋市遺跡分布地図作成年次別計画】

平成15年度	城南地区（未完）
平成16年度	元総社・総社・清里地区
平成17年度	桂萱・永明地区
平成18年度	南橘・芳賀地区
平成19年度	東・上川淵・下川淵地区
平成20年度	大胡地区・城南地区
平成21年度	富士見地区
平成22年度	旧市内、前橋市遺跡地図原稿完成
平成23年度	前橋市遺跡分布地図印刷、配布

具体的な作業の内容は、以下のとおりに行った。
①1/5000現形図に過去の調査履歴や指定文化財等を記入し、遺跡範囲の再検討および修正
②現地踏査で採集した遺物の水洗・注記、分類・集計など
③1/5000の現形図に踏査成果を整理し、遺跡分布地図の原図の作成および修正
④ 採集遺物の図化作業

なお、隣接市町村はすでに遺跡分布地図が出来上がっているため、隣接する市町村との協議も必要となってくる。今後、遺跡の範囲設定の基準が明確化が必要であるが、隣接市町村との整合を図って行く必要がある。

３）遺跡資料整備事業
本事業は、埋蔵文化財発掘調査によって記録された各種資料や出土遺物等の整備を行い、その成果を広く市民に周知することが目的である。具体的には、各種展示・パンフレットの作成、発掘調査要覧の作成である。埋蔵文化財資料の展示は、文化財展をはじめ元気21、けやきウォーク、サンデンフォレスト、文化財保護課玄関、粕川歴史民俗資料館、総社資料館、大室公園公園管理事務所ホール、市内各公民館や小中学校などに行っている。
①普及パンフレット作成…小中学生を対象にした普及パンフレット「い・せ・きワールドin前橋」を印刷し配布している。
②発掘調査遺跡要覧…旧４町村で実施した緊急発掘調査のうち報告書が作成されていなかった未整理発掘調査遺跡の遺物整理を行い調査要覧を作成する。さらに、それを本市の基礎資料にするとともに普及啓発の資料とすることを目的とする。
具体的な作業の内容は、遺物については、注記、接合、実測、トレース、拓本、版組、写真撮影を行い、遺構図面に関しては、全体図作成、遺構図作成など行った上で、編集、校正を行い、ＰＤＦファイル化を図った。
要覧作成の基本は、１遺跡６頁程度を基本としている。

一覧表・発掘調査抄録・解説文など…	2.5頁
位置図、周辺図、グリッド図、遺構全体図…	2.0頁
遺構全景写真、遺構写真、遺物写真…	1.5頁

平成21年度については宮城・粕川地区要覧(2)の作成を行い、宮城・大胡について完成した。旧勢多郡４町村の埋蔵文化財発掘調査要覧を進めているが、旧前橋市分の昭和54～56年度の発掘調査についても一部未整理なものが存在

するため作業に取り組んでいかなければならない。

【発掘調査未整理遺跡数】

旧大胡町	６８
旧宮城村	１７
旧粕川村	８９
旧富士見村	１７
合　計	１９１

【要覧作成年次計画】

平成18年度	大胡地区要覧(1)…60遺跡 PDFﾌｧｲﾙ化
平成19年度	大胡地区要覧(2)…８遺跡 PDFﾌｧｲﾙ化
平成20年度	宮城・粕川地区要覧(1)…50遺跡、PDFﾌｧｲﾙ化
平成21年度	**宮城・粕川地区要覧(2)…56遺跡、PDFﾌｧｲﾙ化**
平成22年度	富士見地区要覧…17遺跡、PDFﾌｧｲﾙ化

③発掘調査遺跡全体図集成…発掘調査成果のうち図面については集成作業が必要である。元総社蒼海遺跡群については上野国府関係から集成作業を逐次、行っているが、他の遺跡群についても同様に集成を行っていく必要がある。

４）開発に伴う事前協議

開発に伴う事前協議と遺跡地図データのＧＩＳ化…合併による市域の拡大に伴い増加の一途を辿っている。月平均150件以上、年間にして1,800件もの協議に対応した。このうち1,000㎡を超える大規模な開発や周知の遺跡や隣接するもの、上野国府や山王廃寺、古墳など重要遺跡については試掘調査を行った。試掘件数56件であり、このうち調査に移行したものは２件であった。このほか立会調査が28件であった。今後、開発協議に迅速に対応するために、遺跡地図の再整備とＧＩＳ活用を早急に進める必要がある。

【遺跡地図の前橋市統合型ＧＩＳ搭載】

平成２０年度	データ項目入力作業（156遺跡、指定文化財）
平成２１年度	**データ項目入力作業 富士見以下の線引き**
平成２２年度	データ項目入力作業
平成２３年度	データ項目入力作業
平成２４年度	データ項目入力作業

平成 21 年度　埋蔵文化財発掘調査一覧表

No.	遺　跡　名	コード	代表地番	調査面積	方式	調査原因	調査期間
1	元総社蒼海遺跡群（26）	21A130-26	元総社町 1802-1	4,058	直営	区画整理	21/05/18-12/25
2	元総社蒼海遺跡群（27）	21A130-27	元総社町 1815-5	1,600	委託	区画整理	21/09/11-22/01/31
3	元総社蒼海遺跡群（28）	21A130-28	元総社町 1817-1	1,120	委託	区画整理	21/11/20-22/01/31
4	元総社蒼海遺跡群（29）	21A130-29	元総社町 1926	1,750	委託	区画整理	21/09/24-12/14
5	元総社蒼海遺跡群（30）	21A130-30	総社町総社 3095-8	570	委託	区画整理	21/11/12-12/04
6	元総社蒼海遺跡群（31）	21A130-31	元総社町 1965	915	委託	区画整理	22/01/18-03/12
7	上細井北遺跡群 No. 2	21B17	上細井町 418-1	1,200	直営	土地改良	21/07/01-08/06
8	山王廃寺	21A135	総社町総社 2380	682	直営	範囲確認	21/08/24-12/24
9	総社町屋敷南遺跡及び蛇穴山・宝塔山古墳	21A139	総社町総社 1583-2	1,583	直営	公民館建設	21/06/08-07/23
10	南部拠点地区遺跡群 No. 3	21G65	鶴光路町 112-2	10,140	委託	区画整理	21/07/21-12/09
11	南部拠点地区遺跡群 No. 4	21G67	新堀町 5-3	31,753	三者	区画整理	21/12/07-22/03/31
12	南部拠点地区遺跡群 No. 5	21G68	下阿内町 4	15,135	三者	区画整理	21/12/14-22/03/27
13	六供遺跡群 No. 5	21H47	六供町 198-9	700	委託	区画整理	21/06/15-07/17
14	堀越甲真木 No. 3 遺跡	21I18	堀越町 579-10	480	委託	道路改良	21/06/27-07/03
15	前橋城（南曲輪地点）	21H48	大手町 1-135-1	500	委託	道路改良	21/06/30-07/22
16	前橋城	21H52	大手町 3-9-5	45	直営	個人住宅	21/6/29
17	女屋宮田遺跡	21F9	女屋町 40-4	340	委託	道路改良	21/07/24-08/18
18	房丸桜町遺跡	21G69	房丸町 19-2	460	委託	歩道整備	22/01/18-02/23
19	総社稲荷塚大道西遺跡	21A132	総社町総社 2533	107	直営	事務所建設	22/02/08-02/24
20	元総社屋敷遺跡	21A146	元総社町 2467-3	30	直営	個人住宅	21/07/13
21	山神遺跡	21I9	茂木町 644-1	88	直営	集合住宅	21/10/08・29
22	胴城遺跡	21C47	鳥取町 355-1	50	直営	携帯基地局	21/12/01
23	山王若宮Ⅳ遺跡	21G66	山王町 123	1,095	三者	老人ホーム建設	21/09/16-11/13

平成21年度　埋蔵文化財報告書一覧表

番号	報告書名	遺跡名	発行者	発行年月日	備考
1	元総社蒼海遺跡群（26）	元総社蒼海遺跡群	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2010.3.19	
2	元総社蒼海遺跡群（27）	元総社蒼海遺跡群	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2010.3.12	
3	元総社蒼海遺跡群（28）	元総社蒼海遺跡群	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2010.3.12	
4	元総社蒼海遺跡群（29）	元総社蒼海遺跡群	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2010.3.12	
5	元総社蒼海遺跡群（30）	元総社蒼海遺跡群	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2010.3.12	
6	山王廃寺	山王廃寺	前橋市教育委員会	2010.2.18	
7	前橋市総社古墳群の調査	総社町屋敷南	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2010.3.19	
8	上細井北遺跡群No.2	上細井北遺跡群	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2010.3.20	
9	南部拠点地区遺跡群No.3	南部拠点地区遺跡群	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2010.3.12	
10	六供遺跡群No.5	六供遺跡群No.5	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2009.12.28	
11	前橋城（南曲輪地点）	前橋城（南曲輪地点）	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2009.12.28	
12	女屋宮田遺跡	女屋宮田遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2010.1.29	
13	山王若宮Ⅳ遺跡	山王若宮Ⅳ遺跡	前橋市教育委員会	2010.12.20	
14	房丸桜町遺跡	房丸桜町遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	2010.3.12	

平成21年度　立会調査一覧表

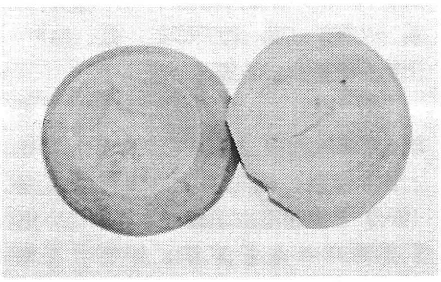
	所在地	開発面積 ㎡	開発原因	調査年月日	調査結果
1	石倉町五丁目	503.00	集合住宅建設	4月1日・2日	土師器片2点
2	荒子町	3,621.00	駐車場及び資材荷揚場	4月7日	埋蔵文化財検出なし
3	堀之下町	405.86	個人住宅建設	4月13日	埋蔵文化財検出なし
4	上細井町	330.00	個人住宅建設	5月12日	埋蔵文化財検出なし
5	西大室町	330.00	個人住宅建設	5月18日	埋蔵文化財検出なし
6	粕川町深津	330.00	個人住宅建設	6月8日	土器片数点
7	富士見町横室	1,745.00	宅地造成	6月17日	埋蔵文化財検出なし
8	大友町二丁目	1,654.04	店舗建設	6月23日	埋蔵文化財検出なし
9	上大島町	6,240.67	工場建設	7月21日	埋蔵文化財検出なし
10	青梨子町	264.85	個人住宅建設	8月6日	埋蔵文化財検出なし
11	滝窪町	150.00	携帯電話電波塔設置	9月8日	埋蔵文化財検出なし
12	茂木町	2,077.00	集合住宅建設	9月30日	埋蔵文化財検出なし
13	亀泉町	150.00	携帯電話基地局建設	10月5日	埋蔵文化財検出なし
14	朝倉町	150.00	携帯電話基地局建設	10月5日	埋蔵文化財検出なし
15	茂木町(№12と同じ)	2,077.00	集合住宅建設	10月8日	土師器2点、ピット3基
16	荻窪町	25.00	携帯電話基地局建設	10月15日	埋蔵文化財検出なし
17	北代田町	2,099.98	宅地造成	10月20日	埋蔵文化財検出なし
18	富士見町小暮	150.00	携帯電話基地局建設	10月21日	埋蔵文化財検出なし
19	鼻毛石町	16.00	携帯電話基地局建設	10月22日	埋蔵文化財検出なし
20	力丸町	329.00	個人住宅建設	10月28日	埋蔵文化財検出なし
21	茂木町(№12、15と同じ)	2,077.00	集合住宅建設	10月29日	古墳時代住居跡、古代土坑
22	富士見町時沢	317.00	個人住宅建設	12月15日	埋蔵文化財検出なし
23	小島田町	4.00	携帯電話基地局建設	12月18日	埋蔵文化財検出なし
24	苗ヶ島町	16.00	携帯電話基地局建設	2月5日	埋蔵文化財検出なし
25	柏倉町	9.00	携帯電話基地局建設	2月12日	埋蔵文化財検出なし
26	嶺町	10.24	携帯電話基地局建設	2月10日	埋蔵文化財検出なし
27	新井町	200.00	携帯電話基地局建設	2月15日	埋蔵文化財検出なし
28	亀里町	120.00	携帯電話基地局建設	2月25日	埋蔵文化財検出なし

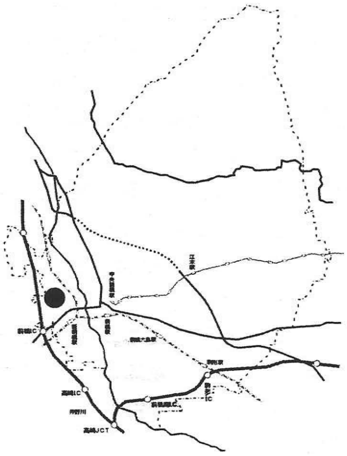
平成21年度　試掘調査一覧表

	所在地	開発面積 ㎡	開発原因	調査年月日	調査結果
1	古市町一丁目	2,352.62	宅地造成	4月13日	埋蔵文化財検出なし
2	大手町一丁目	600.00	道路建設	4月16日	前橋城堀跡、奈良・平安時代住居
3	六供町	1,900.00	道路建設(区画整理)	4月23日	埋蔵文化財検出なし
4	上細井町	2,554.00	土地改良事業	4月30日～5月1日	古代溝跡
5	堀越町	3,200.00	道路建設	5月11日	埋蔵文化財検出なし
6	富田町	400.00	道路建設	5月14日	埋蔵文化財検出なし
7	駒形町、下増田町	23,800.00	道路建設	5月18日	埋蔵文化財検出なし
8	小屋原町	4,824.61	駒形駅前広場	5月21日	埋蔵文化財検出なし
9	鼻毛石町	3,900.00	道路建設	5月25日	時期不明溝跡
10	下増田町	47,594.48	多目的運動広場	5月27日	埋蔵文化財検出なし
11	金丸町	23,191.00	採卵養鶏施設建設	6月1日	埋蔵文化財検出なし
12	女屋町、下長磯町	5,000.00	道路建設	6月2日	古墳時代住居
13	富士見町時沢	1,792.00	宅地造成	6月8日	中世溝跡
14	二之宮町	570.00	道路建設	6月16日	埋蔵文化財検出なし
15	五代町	900.00	道路建設	6月16日	土坑
16	川曲町	835.00	店舗建設	6月19日	埋蔵文化財検出なし
17	大友町二丁目	1,319.88	宅地造成	6月22日	埋蔵文化財検出なし
18	鼻毛石町	1,808.27	幼稚園建設	6月25日	埋蔵文化財検出なし
19	大手町三丁目	374.39	個人住宅建設	6月29日	古墳の周堀
20	堀之下町	2,835.09	有料老人ホーム建設	7月7日	埋蔵文化財検出なし
21	元総社町	193.37	個人住宅建設	7月13日	平安時代住居
22	総社町総社	33.80	道路建設(区画整理)	7月15日	平安時代住居
23	東大室町	2,646.00	公民館建設	7月30日	埋蔵文化財検出なし
24	鶴光路町	962.94	集合住宅建設	8月4日	埋蔵文化財検出なし
25	茂木町	2,077.00	集合住宅建設	8月6日	古墳～奈良時代住居
26	東上野町	2,307.00	露天資材置場	8月18日	埋蔵文化財検出なし
27	荻窪町	826.00	診療所建設	9月1日	埋蔵文化財検出なし
28	富士見町小沢	2,200.00	道路建設	9月10日	埋蔵文化財検出なし
29	茂木町	1,235.00	集合住宅建設	9月28日	埋蔵文化財検出なし
30	文京町三丁目	377.47	自治会館建設	10月6日	埋蔵文化財検出なし
31	箱田町	1,233.00	宅地造成	10月9日	平安時代水田
32	端気町	2,013.80	保育園建設	10月16日	古代土坑
33	六供町	265.99	個人住宅建設	10月28日	埋蔵文化財検出なし
34	朝倉町四丁目	271.00	個人住宅建設	11月5日	埋蔵文化財検出なし
35	宮地町	12,436.00	給油所等建設	11月10日～11日	平安時代水田
36	元総社町	1,017.00	道路建設(区画整理)	11月24日～25日	古墳時代住居、中世堀跡
37	鳥取町	50.00	携帯電話基地局建設	12月1日	古墳時代住居
38	粕川町中之沢	7,089.00	家畜飼料調製・保管庫	12月8日	埋蔵文化財検出なし
39	茂木町	1,449.00	集合住宅建設	12月15日	埋蔵文化財検出なし
40	富士見町原之郷	2,953.00	宅地造成	1月13日	奈良時代住居
41	富田町	80.00	個人住宅建設	1月21日	埋蔵文化財検出なし
42	六供町	155.62	個人住宅建設	1月22日	埋蔵文化財検出なし
43	六供町	500.00	道路建設(区画整理)	1月22日	埋蔵文化財検出なし
44	堀越町	363.65	個人住宅建設	1月26日	埋蔵文化財検出なし
45	富士見町原之郷	2,953.00	宅地造成	2月1日	奈良時代住居
46	問屋町一丁目	1,621.48	特別養護老人ホーム建設	2月2日	埋蔵文化財検出なし
47	小坂子町	6,172.22	つり堀建設	2月18日	埋蔵文化財検出なし
48	西善町	273.37	集合住宅建設	3月2日	埋蔵文化財検出なし
49	二之宮町	690.00	病院建設	3月4日	埋蔵文化財検出なし
50	富士見町時沢	2,225.37	宅地造成	3月5日	埋蔵文化財検出なし
51	大手町一丁目	1,240.00	道路建設	3月8日～12日	前橋城堀跡、古墳周堀
52	稲荷新田町	2,940.91	宅地造成	3月15日	平安時代水田
53	城東町四丁目	2,020.70	雨水滞水池築造	3月19日	埋蔵文化財検出なし
54	箱田町	2,300.00	宅地造成	3月16日	埋蔵文化財検出なし
55	江田町	10,000.00	宅地造成	3月17日～18日	奈良時代住居、中世以降溝跡
56	新堀町	3,204.10	土地区画整理	3月23日	平安時代水田

平成２１年度　埋蔵文化財発掘調査内容

①元総社蒼海遺跡群(26)（21A130-26）





遺跡位置図

事 業 名　元総社蒼海土地区画整理事業

所 在 地　前橋市元総社町 1802-1 他

調査期間　平成 21 年 5 月 18 日から
平成 21 年 12 月 25 日まで

担 当 者　山下歳信・阿久澤真一・並木勝洋・福田貫之・清水亮介

調査面積　4,058 ㎡

調査の経緯　前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出され、これを受けて発掘調査を行った。

調査の成果　元総社蒼海遺跡群(26)は調査地が元総社蒼海土地区画整理事業区域内に点在するため調査区を１～13 区に区分した。

国分尼寺南西部に位置する１～４区では古墳から奈良・平安竪穴住居跡 48 軒、竪穴状遺構６軒、溝跡９条、土坑 20 基、土坑墓３基、落ち込み１基を検出した。国分尼寺西側に位置する１区の９世紀前半の住居跡からは「大館」「少」と書かれた墨書土器が出土した。今後国府や国分僧寺・尼寺との関係を踏まえながら検証が必要と考えている。

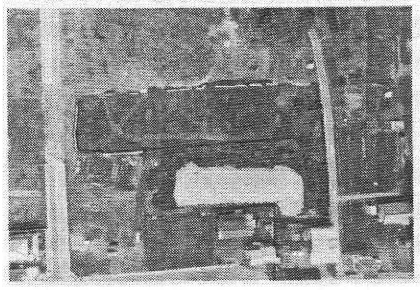
染谷川左岸の台地上である５～８区では古墳から奈良・平安竪穴住居跡 30 軒、竪穴状遺構３軒、溝跡８条、土坑 10 基を検出した。５区では南北方向に走る深さ３ｍ程の溝が検出された。蒼海城の堀と思われるが、さらに検証が必要な遺構である。

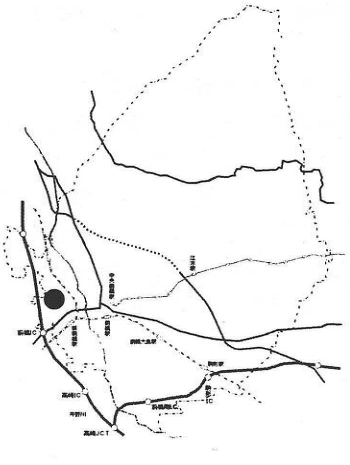
牛池川東岸の 10～12 区では古墳から奈良・平安竪穴住居跡 20 軒、竪穴状遺構１軒、土坑３基を検出した。

推定国府西側の９、13 区では古墳から奈良・平安竪穴住居跡４軒、溝跡１条、土坑３基、土坑墓３基を検出した。

今回の調査では過去の蒼海遺跡群の調査に続いて、推定国府域周辺の集落の広がりと変遷を考える資料を得ることができた。また今後さらに調査を進めることで、国府の解明と共に「大館」と書かれた墨書土器についてもより明らかになるであろう。

②③　元総社蒼海遺跡群(27)(28)（21A130-27、28）





遺跡位置図

事 業 名　元総社蒼海土地区画整理事業

所 在 地　前橋市元総社町 1815-5 他

調査期間　平成 21 年 9 月 11 日から
平成 22 年 1 月 31 日まで

担 当 者　神宮　聡（前橋市教育委員会）・日沖剛史（毛野考古学研究所）

調査面積　2,720 ㎡

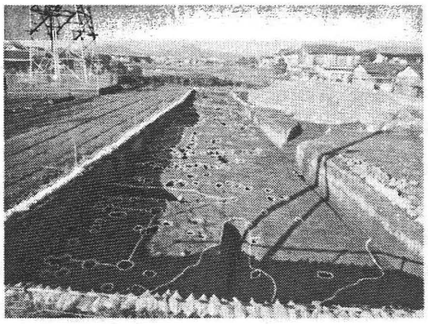
調査の経緯　平成 21 年 8 月 5 日付けで前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市より前橋市教育委員会にあった。市教育委員会では、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団に発掘調査について協議を行ったところ、調査団より直営による発掘調査が困難であるため、民間調査組織に業務を委託したいとの回答があった。民間調査組織への業務委託については、前橋市の合意も得られたため、毛野考古学研究所に発掘調査の委託をした。

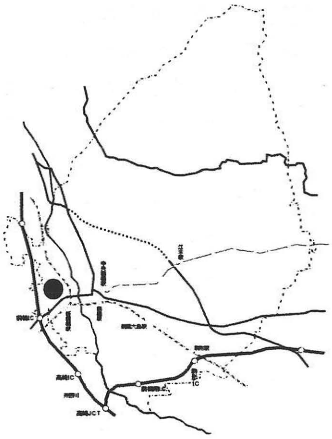
調査の成果　調査の結果、竪穴住居跡 100 軒、溝跡 32 条、土坑 73 基、竪穴状遺構 6 基、井戸 1 基、掘立柱建物跡 2 棟、畠跡 1 箇所、硬化面 1 基、焼土痕 2 基が確認された。

100 軒確認された竪穴住居跡は古墳時代及び平安時代に限定されており、古墳時代は 4・6・7 世紀、平安時代は 10・11 世紀に比定されるものである。本遺跡地において 8・9 世紀代の住居跡が検出されないことは、この場所が古くから上野国府の北端付近と考えられており、この時期、国府域周辺で居住に対する規制がかかっていた可能性が考えられる。10 世紀代になると再び住居跡が構築されることは、939 年平将門により国府が滅ぼされたことにより、本遺跡地が国府としての役割を終えたことを示すものである。

特筆すべき遺構としては、側柱構造と総柱構造をとる掘立柱建物跡が各 1 棟検出された。柱穴は平面隅丸方形状を呈し 1 辺 70～80cm 程の規模である。これらの掘立柱建物跡は形状等から 8 世紀代に帰属する可能性があり、上野国府に関連する可能性を窺わせるものである。

④ 元総社蒼海遺跡群(29)
(21A130-29)





遺跡位置図

事 業 名　元総社蒼海土地区画整理事業

所 在 地　前橋市元総社町1926他

調査期間　平成21年9月24日から
平成21年12月14日まで

担 当 者　神宮　聡(前橋市教育委員会)・山田誠司(技研測量設計株式会社)

調査面積　1,750 ㎡

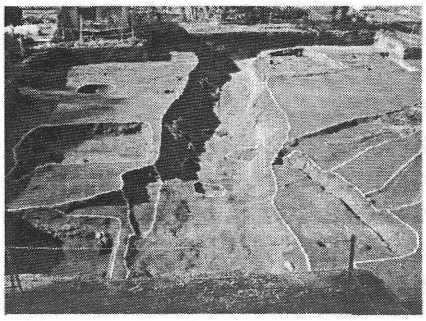
調査の経緯　平成21年8月11日付けで前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市より前橋市教育委員会にあった。市教育委員会では、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団に発掘調査について協議を行ったところ、調査団より直営による発掘調査が困難であるため、民間調査組織に業務を委託したいとの回答があった。民間調査組織への業務委託については、前橋市の合意も得られたため、技研測量設計株式会社に発掘調査の委託をした。

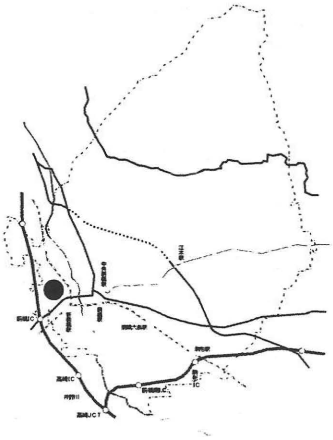
調査の成果　調査区は1～3区に区分し、1区：蒼海城の堀跡、2区：古墳～平安時代の住居跡、3区：古墳・平安時代の住居跡、掘立柱建物、土坑・ピット群が検出された。遺構の総数は古墳～平安時代の住居跡26軒、中・近世の堀・溝跡12条、掘立柱建物1軒、墓坑14基、火葬跡2基、地下式坑1基、井戸・土坑・ピット333基となる。

1区で検出された蒼海城の堀跡2条は、蒼海城縄張図に当てはめると本丸と出雲屋敷の間を南北に走行する堀(W-2)と縄張図に記載されていない出雲屋敷の中央を東西に走行する堀(W-1)と考えられる。

2区では古墳～平安時代にかけての住居跡のほかに方形に巡る堀状遺構(W-1)が検出され、平成17年度に調査を実施した元総社蒼海遺跡群(5)のW-4と同一の遺構と考えられる。元総社蒼海遺跡群(5)では、この堀状遺構の西側で中世の墓域が確認されているが、今回、2区で検出した墓跡は、W-1からやや離れた場所に散在しており、中世～近世のものと推定される。平面形態を観察すると、中世の屈葬から近世には座葬へと埋葬形態が変遷したことを示唆させる。

⑤ 元総社蒼海遺跡群(30)
(21A130-30)





遺跡位置図

事 業 名　元総社蒼海土地区画整理事業

所 在 地　前橋市総社町総社3095-8他

調査期間　平成21年11月12日から
平成21年12月4日まで

担 当 者　神宮　聡(前橋市教育委員会)・佐野良平(技研測量設計株式会社)

調査面積　570 ㎡

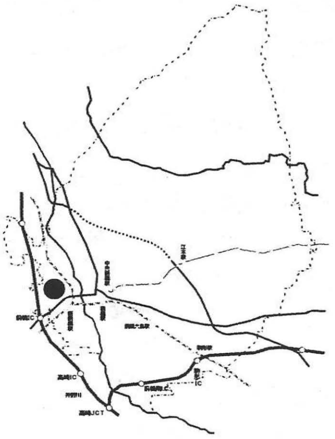
調査の経緯　平成21年9月4日付けで前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市より前橋市教育委員会にあった。市教育委員会では、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団に発掘調査について協議を行ったところ、調査団より直営による発掘調査が困難であるため、民間調査組織に業務を委託したいとの回答があった。民間調査組織への業務委託については、前橋市の合意も得られたため、技研測量設計株式会社に発掘調査の委託をした。

調査の成果　調査の結果、古墳～平安時代の住居跡6軒、中世以降の道路跡1条、堀・溝跡6条、墓坑2基、火葬跡1基、井戸・土坑・ピット23基が検出された。

検出された住居跡の内訳は、古墳時代前期(4世紀代)1軒、後期(7世紀代)3軒、平安時代(10世紀後半～11世紀前半)2軒になる。元総社蒼海遺跡群において古墳時代前期の住居跡は、牛池川右岸台地上で確認されており、右岸台地上を居住域、左岸の低地部分を水田等の生産域としていたと考えられる。古墳時代後期になると元総社蒼海遺跡群全域に住居跡が確認されるようになり、平安時代にはさらに住居跡の数が増加する。

なお、推定国府域の北側にあたる本調査区周辺においては、奈良時代の住居跡がほとんど検出されなくなることについては、国府造営に伴い何らかの土地規制が働いていたことが窺える。これは、今年度隣接で調査を行った元総社蒼海遺跡群(27)(28)についても同様な傾向が見られる。

⑥ 元総社蒼海遺跡群(31)(21A130-31)



遺跡位置図

事 業 名 元総社蒼海土地区画整理事業

所 在 地 前橋市元総社町1965他

調査期間 平成22年1月18日から平成22年3月12日まで

担 当 者 神宮　聡(前橋市教育委員会)・熊谷　満(技研測量設計株式会社)

調査面積 915㎡

調査の経緯 平成21年12月2日付けで前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市より前橋市教育委員会にあった。市教育委員会では、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団に発掘調査について協議を行ったところ、調査団より直営による発掘調査が困難であるため、民間調査組織に業務を委託したいとの回答があった。民間調査組織への業務委託については、前橋市の合意も得られたため、技研測量設計株式会社に発掘調査の委託をした。

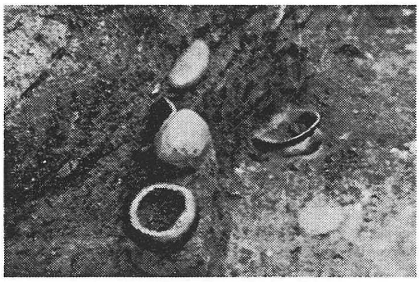
調査の成果 調査の結果、古墳時代の住居跡17軒・溝跡1条・道路状遺構1条、中・近世の堀・溝跡3条を検出した。

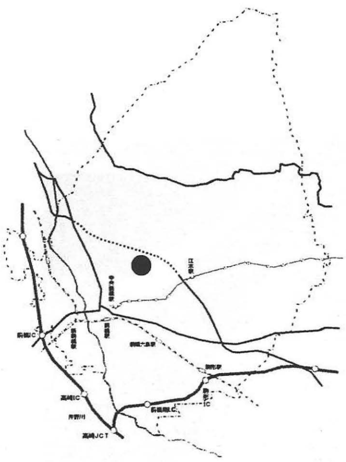
住居跡は、調査区の北東部及び中央部に検出された中世蒼海城に関連すると推測される堀跡により大部分が壊されていたが、概ね6世紀後半～7世紀前半頃の所産と考えられる。

堀跡は、出土遺物からその埋没年代が少なくとも18世紀中葉を遡るものではないことが判った。

本調査区は、推定国府中枢域の一つとして考えていた場所であったが、国府に関連すると考えられる遺構は検出されなかった。しかし、国府造営期から国府が衰退する平安時代後期までの遺構が検出されていないことは、この地において何らかの土地規制が働いていたことが窺える。

⑦ 上細井北遺跡群No.2(21B17)





遺跡位置図

事 業 名 上細井土地改良区

所 在 地 前橋市上細井町418番地1

調査期間 平成21年7月1日から平成21年8月6日まで

担 当 者 阿久澤真一・並木勝洋

調査面積 1,200㎡

調査の経緯 上細井土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が平成21年5月27日付けで上細井土地改良区より前橋市教育委員会に提出され、これを受けて平成21年6月24日に委託契約を締結し、平成21年7月1日より発掘調査を行った。

調査の成果 本調査の結果、縄文時代の集石土坑1基、古墳2基、古墳時代の竪穴住居跡1軒、奈良・平安時代の竪穴住居跡1軒、時期不明の竪穴住居跡2軒を検出した。

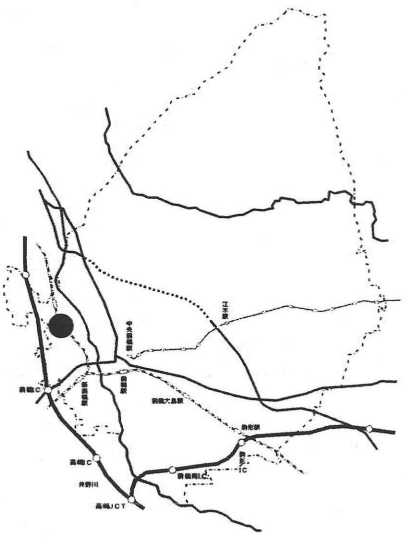
縄文時代の遺物としては集石土坑や周堀跡の覆土から多くの深鉢片が出土した。そのほとんどは諸磯c式であり、他にも大木5式、興津式など縄文時代前期後半のものが多かった。また、縄文時代早期、撚糸文系の井草式土器も出土している。

古墳は2基ともに周堀が検出されただけであり、墳丘と想定される場所は調査区外であった。古墳形状はともに円墳であり、墳丘の規模は15～20mと想定した。1基は南側前面部が開く馬蹄形状の周堀であると考えられ、もう1基は南側が大幅に掘削されており、周堀南側は検出できなかった。時期は2基とも覆土や遺物に埴輪がないことから7世紀代と思われる。

H－3号住居跡は古墳時代中期と考えられ、胴部が扁平した小甕が出土している。覆土の中層にHr-FAがレンズ状に自然堆積していることから5世紀末には廃棄された住居であると考えられる。

上細井地域は古墳時代中期・後期の住居跡を多く検出している。これは台地中央部が古代からの住居構築の適地であったためと考えられる。

⑧ 山王廃寺範囲内容確認調査(21A135)



遺跡位置図

事 業 名　山王廃寺範囲内容確認調査
所 在 地　前橋市総社町総社23ほか
調査期間　平成21年8月24日から
平成21年12月24日まで
担 当 者　山下歳信・福田貫之
調査面積　640.5㎡

調査の経緯　山王廃寺は総社町山王地区に所在し、7世紀後半に建てられた古代寺院である。山王廃寺については、寺院の範囲や伽藍配置が不明なため、平成18年度から5ヵ年計画で伽藍配置や寺域の範囲とその内容を確認する発掘調査を実施しており、今年度は第4年次の調査を行った。

調査の成果　平成21年度の調査目的は、①回廊の範囲確認、②中門の範囲確認、③金堂南側施設の範囲確認、④寺域の確認であった。これらの目的に基づき、計12ヶ所のトレンチを調査した。

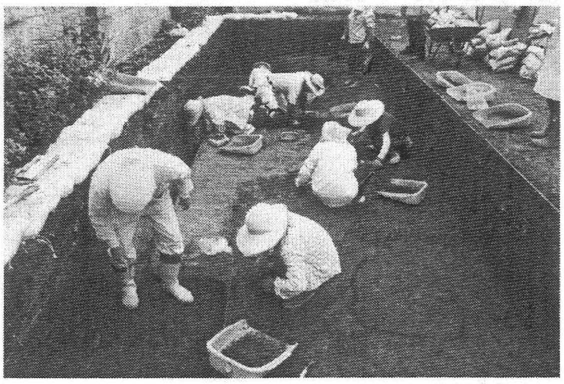
① 回廊については、平成20年の調査によって南回廊の可能性を示唆する版築土を検出し、この成果を踏まえ、西側の回廊範囲確認を目的に調査した。結果、南面と西面が交わる内側部分の版築土が検出された。版築のコーナー部からは礎石据付痕の川原石が検出され、平成19年度の調査で検出された西側回廊の礎石据付痕の柱筋に一致することから、南北回廊の規模は81mとなった。

② 中門については、昭和56年と平成19年の調査結果より中門跡と推定される箇所を調査した。その結果、南北9m以上の版築を確認し、北縁辺からは瓦が集中して出土した。その下部からは溝状の掘込みと柱穴を検出した。この遺構は、雨落しか基壇の北辺に施された堰板痕もしくは木造基壇の羽目板痕の可能性が考えられる。また、礎石据付跡の根石の可能性が考えられる川原石が出土し、中門の西側柱列と推定される。

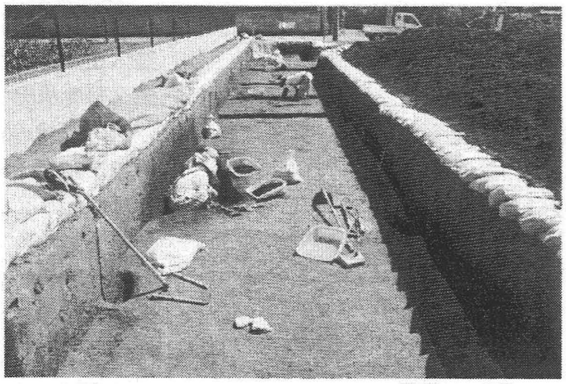
③ 金堂南側施設については、金堂に係る白色粘土の広がりや版築土は検出されなかった。

④ 寺域からは、過去に金堂製装飾金具・銅椀・緑釉水注などが出土している。これらの出土地点付近の遺構と寺域に係る遺構・施設の確認を目的としてトレンチ調査を行ったが、それに関連する遺構は検出できなかった。

寺域の北東に設けた調査区からは、柱列の方位が西に偏する布掘り工法の掘立柱建物跡、東西方位の掘立柱建物跡、竪穴住居跡、方形の柱穴跡、溝跡、土坑を検出した。検出された掘立柱建物跡は、伽藍の北方から北東方向に広がる建物群の一部と理解される。また、多数検出された柱穴には、底面に瓦を礎版としたものがあり、寺創建時以降の建物跡の存在が考えられ、建物の性格と伽藍を考えるうえで重要な検出であった。土坑からは昭和54年度に行われた金堂の調査等で出土している基壇化粧の部材として使用された角閃石安山岩の切石が2個出土した。8世紀代と考えられる竪穴住居跡からは、置き竈と内面に暗文を施す鍋状土器が出土し、寺に係る僧侶の存在が示唆される。

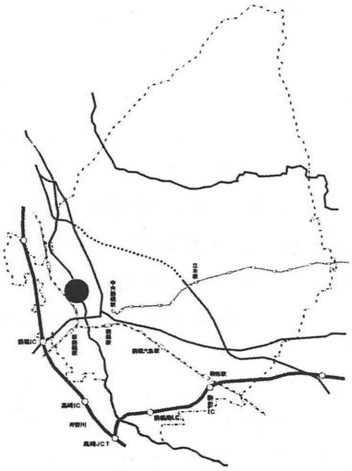


中門の範囲確認作業



寺域の範囲確認作業

⑨　総社町屋敷南遺跡及び蛇穴山・宝塔山古墳
(21A139)



遺跡位置図

事 業 名　総社公民館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査
所 在 地　前橋市総社町総社
調査期間　平成21年6月8日から
　　　　　平成21年7月23日まで
担 当 者　山下歳信・清水亮介・福田貫之
調査面積　1,583 ㎡

調査の経緯　平成20年5月20日付で前橋市長高木政夫（生涯学習課）より、総社公民館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が、前橋市教育委員会に提出された。これを受けて、平成20年6月15日から発掘調査を行なった。併せて、宝塔山古墳と蛇穴山古墳の範囲確認調査を行った。

調査の成果　総社町屋敷南遺跡及び宝塔山古墳・蛇穴山古墳の発掘調査は、便宜上4区画に分けて調査を実施し、調査着手順に1区は総社町屋敷南遺跡と宝塔山古墳周堀の一部、2区から4区は蛇穴山古墳の周堀とした。

1区からは4軒の竪穴住居跡が確認された。出土遺物から3軒は6世紀後半に帰属する。残りの1軒は遺物の出土がなかったため、時期設定に苦慮するが、時期が判明している3軒の竪穴住居跡と主軸方位が共通しているため6世紀後半に帰属する可能性が高い。

宝塔山古墳周堀の調査は浅間B軽石（As-B）の下、黒褐色土面まで掘り下げた。ただし、調査区南壁は約50cm幅で周堀底面まで、周堀の北東部コーナーは2m四方を掘り下げた。

2区からは蛇穴山古墳の周堀（内堀）、北西部コーナー、3区からは蛇穴山古墳の周堀（内堀と外堀）と外堤、4区からは蛇穴山古墳の周堀（外堀）と外堤が確認された。

宝塔山古墳について

周堀の幅は約18mと想定され、遺構確認面から周堀底面までの深さは約70cmを測り、周堀は約40度前後で立ち上がる。周堀底面から約20cm上に浅間B軽石が最大20cmの厚さで堆積している。調査により確認された周堀を含めた墳丘範囲は一辺約96mと想定され、墳丘方位は約34度東に振れる。

蛇穴山古墳について

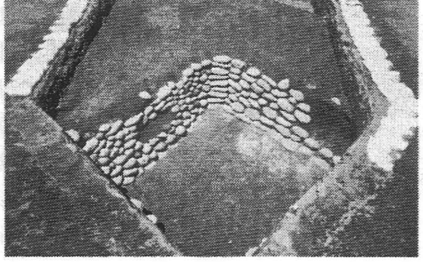
内堀は2・3区、外堀は3・4区で確認された。4区の内堀は近世の溝による侵食を受けているため確認されなかった。外堤の両側には葺石が施される。遺構確認面からの内堀の深さは70cmから130cm、外堀の幅は300cmから310cm、深さは30cmから50cmを測る。外堤は上幅480cm、下幅830cm、内堀からの高さは100cmを測る。外堤に施された葺石は川原石であり、大型のもので約50cm、小型のもので約20cmであり、いずれも横方向を意識しながら積み上げている。検出された外堤内側の葺石は2区で9段、3区で10段、外堤外側の葺石は3・4区共に4段を数える。また、外堤の内堀と外堀は約45度前後で立ち上がる。調査により確認された外堀を含めた墳丘範囲は一辺82mと想定され、方位は約18度東に振れる。

土遺物　縄文時代前期土器片4点、横型石匙1点、エンドスクレイパー1点

調査の成果　本調査の結果、縄文時代の陥穴2基、土坑3基、ピット群が検出され、2号土坑（陥穴）からは黒浜式に比定される縄文土器口縁1点と黒色頁岩のエンドスクレイパー1点が出土した。3号土坑（陥穴）からは遺物は出土しなかったが、その形状から縄文時代の陥穴と判断した。

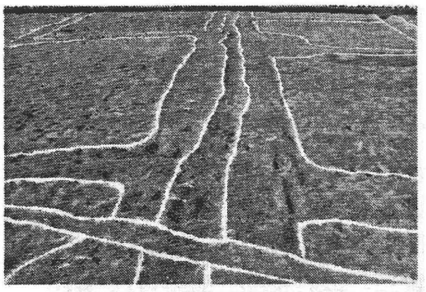
　本調査により確認できた遺構・遺物は数少ないものであったが、2基の陥穴は、県内でよく確認される等高線に沿って掘られたものではなく、等高線に直交するように掘られたものであった。調査区の北西側に遺構が集まっており、試掘で確認された竪穴住居も北西の調査区外であったことから、遺跡の中心である集落域は北西側の台地鞍部にあったと考えられる。

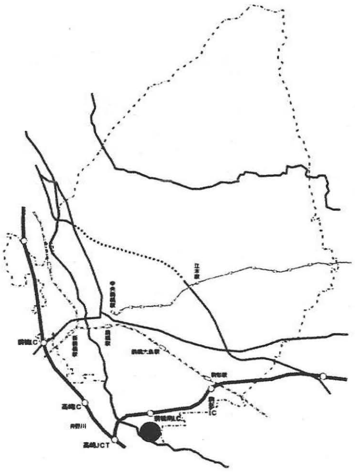
宝塔山古墳の周堀と墳丘（北東から）



蛇穴山古墳2区（南から）

⑩　南部拠点遺跡群 No. 3 (21G65)





遺跡位置図

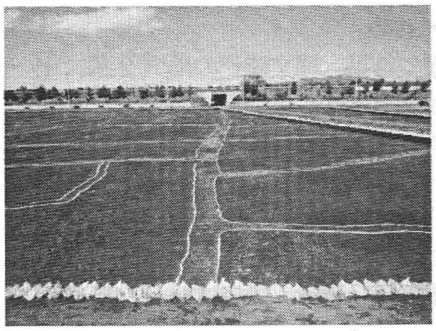
事 業 名　南部拠点地区遺跡群No.3
所 在 地　前橋市鶴光路町112-2ほか
調査期間　平成21年7月21日から
平成21年12月9日まで
担 当 者　神宮　聡（前橋市教育委員会）・荻野博巳・金子正人（スナガ環境測設株式会社）
調査面積　10,140 m²
調査の経緯　組合施行の前橋市南部拠点東地区土地区画整理事業に伴う試掘調査を平成20年9月11日から11月15日まで行い、古墳時代集落跡、平安時代水田跡、中～近世溝跡・柱穴を検出した。現状での保存が不可能なため、施工者である前橋市南部拠点地区土地区画整理組合（仮称）設立準備委員会（後に前橋市南部拠点東地区土地区画整理組合に名称変更）から埋蔵文化財発掘調査の依頼が、前橋市教育委員会に提出された。調査について、市教育委員会から前橋市埋蔵文化財発掘調査団へ調査実施の照会をしたが、調査団が直営で発掘調査を行えないため、スナガ環境測設株式会社へ発掘調査の委託をした。
調査の成果　本調査の結果、古墳時代の土坑2基、ピット18基、溝4条、平安時代のAs-B下水田、溝15条、土坑1基、ピット3基、中・近世の土坑1基、溝30条、ピット42基、近代の焼夷弾跡1ヶ所が検出され、土師器、須恵器片、石、陶器、磁器片等が出土した。

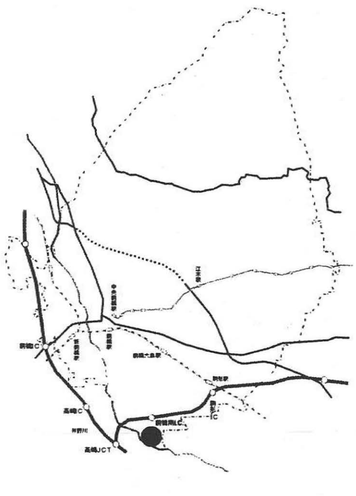
本遺跡を含め、浅間Bテフラ下の水田跡は周辺遺跡の南部拠点遺跡群No.1・2（市調査団）、西田遺跡、村中遺跡、下阿内壱町畑遺跡、下阿内前田遺跡（以上県事業団調査）などで検出されており、広範囲で確認されている。この時期の水田には条里制の土地割りを残している状況が考えられている。

本遺跡で検出した南北方向の大畦畔を座標の磁北に合わせ方向を見ると、他の県調査などの大畦畔にもほぼ符合する。また、大畦畔区画内を区割りする小畦畔間隔については、東西方向では斜め方向や曲線を描くものが多く見られ、南北方向では比較的直線状に延びる状況が見られる。

また、石11個を検出したが、その目的については、目標的な意味合いが考えられ、耕作地の所有関係を明示するなどの目的が考えられる。

⑪　南部拠点遺跡群 No. 4 (21G67)





遺跡位置図

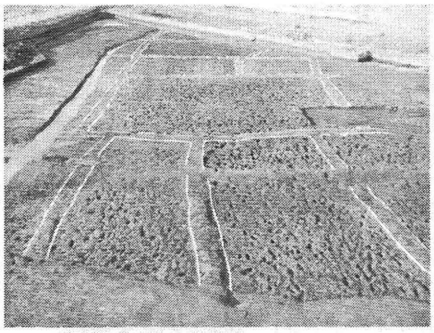
事 業 名　南部拠点地区遺跡群No.4
所 在 地　前橋市新堀町5-3ほか
調査期間　平成21年12月7日から
平成22年3月31日まで
担 当 者　神宮　聡（前橋市教育委員会）・前田和昭（技研測量設計株式会社）
調査面積　31,753 m²
調査の経緯　組合施行の前橋市南部拠点東地区土地区画整理事業に伴う試掘調査を平成20年9月11日から11月15日まで行い、古墳時代集落跡、平安時代水田跡、中～近世溝跡・柱穴を検出した。現状での保存が不可能なため、施行者である前橋市南部拠点東地区土地区画整理組合から埋蔵文化財発掘調査の依頼が、前橋市教育委員会に提出された。調査については、市教育委員会、組合及び技研測量設計株式会社の三者で協定書を締結後、組合と技研測量設計株式会社の間で埋蔵文化財発掘調査委託契約書を締結し、開始した。
調査の成果　本調査の結果、古墳時代のHr-FA洪水層下水田、溝7条、平安時代のAs-B下水田、溝1条、土坑1基、中・近世以降の溝14条、土坑228基、近代の焼夷弾跡4ヶ所が検出され、土師器片等が出土した。

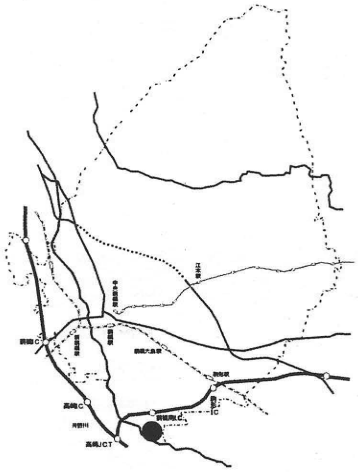
本遺跡周辺では、Hr-FA洪水層下水田やAs-B軽石下の水田が南部拠点遺跡群No.1～3（市調査団）や西田遺跡、村中遺跡、下阿内壱町畑遺跡、下阿内前田遺跡（県事業団）等の調査により広範囲で確認されており、古代から現在に至るまで生産域として利用されてきたことが窺える。特に、As-B軽石下の水田については、律令期の条里制による方格地割を残している状況が窺え、坪交点と東西・南北大畦畔の位置関係を比較検討した結果、南北16条、東西6条の方格地割を復元することができた。

また、畦畔上に埋め込まれた状態で石が出土している。その出土状況は大畦畔上に集中する傾向があり区画を決定する際の「目印」として置いたことが考えられる。

本遺跡地周辺は、県内でも水田遺構の調査事例が非常に多い地域となっており、今後は前橋台地北部も含めてより広範囲の条里型地割の検討を行う必要があるであろう。

⑫ 南部拠点遺跡群 No. 5（21G68）





遺跡位置図

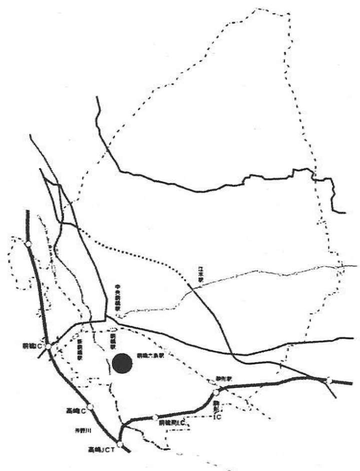
事 業 名　南部拠点地区遺跡群No.5
所 在 地　前橋市下阿内町４ほか
調査期間　平成21年12月14日から
平成22年３月27日まで
担 当 者　神宮　聡（前橋市教育委員会）・有山径世（有限会社毛野考古学研究所）
調査面積　15,135 ㎡
調査の経緯　組合施行の前橋市南部拠点東地区土地区画整理事業に伴う試掘調査を平成20年９月11日から11月15日まで行い、古墳時代集落跡、平安時代水田跡、中～近世溝跡・柱穴を検出した。現状での保存が不可能なため、施工者である前橋市南部拠点東地区土地区画整理組合から埋蔵文化財発掘調査の依頼が、前橋市教育委員会に提出された。調査については、市教育委員会、組合及び有限会社毛野考古学研究所の三者で協定書を締結後、組合と有限会社毛野考古学研究所の間で埋蔵文化財発掘調査委託契約書を締結した。
調査の成果　本調査の結果、古墳時代のHr-FA層下水田跡、溝４条、平安時代末期のAs-B下水田（水田区画89区画、足跡列15列、窪み列１列）、中・近世の土坑18基、溝12条が検出され、土師器、須恵器片、陶磁器片等が出土した。

古墳時代のHr-FA層下水田跡は最小区画面積14.2 ㎡、最大区画面積67.0㎡を測り、規模の異なる区画が混在する状況であった。

平安時代末期のAs-B下水田は「条里地割」と呼ばれる一町（約109m）四方を単位とする方格地割が認められる。また、足跡列は約130m以上の距離を直線的に歩行しており、足跡の形態から北東から南西に向かって歩いていると推測される。

今回の調査により前橋南部地域の古墳時代から中近世に至る土地利用の変遷を把握することができた。本遺跡は後背湿地に立地することから、古墳時代から近現代に至るまで、主に水田として利用されてきた。周辺では、多くの発掘調査事例が蓄積されてきており、本遺跡地周辺の様相が広い範囲で明らかになりつつある。

⑬ 六供遺跡群No.5（21H47）



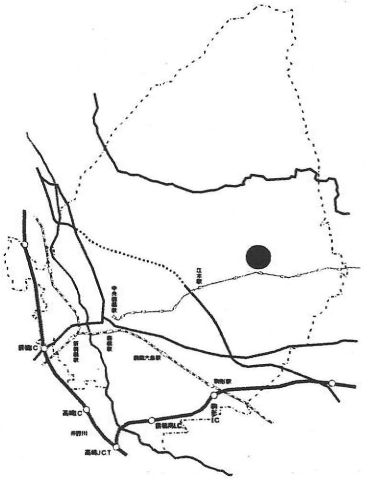
遺跡位置図

事 業 名　六供遺跡群No.5
所 在 地　前橋市六供町198-9ほか
調査期間　平成21年６月15日から
平成21年７月17日まで
担 当 者　神宮　聡（前橋市教育委員会）・山田誠司（技研測量設計株式会社）
調査面積　700 ㎡
調査の経緯　前橋市が行っている前橋都市計画事業六供土地区画整理事業に伴い平成21年２月19日に実施した試掘調査の結果、古墳時代の住居跡を検出したため市と協議を行った。現状での保存が出来ないとのことから、記録保存を目的とした発掘調査を行うことになった。前橋市埋蔵文化財発掘調査団の指導のもと技研測量設計株式会社が発掘調査を実施した。
調査の成果　本調査の結果、古墳時代の住居跡16軒、中近世の土坑３基、溝２条、井戸１基、墓１基が検出され、土師器、須恵器、陶器、磁器、鉄製品が出土した。

本遺跡の周辺には、古墳、奈良・平安の住居跡の他、平安時代の水田跡が多く確認され、立地や周辺地形から当時の土地利用状況の復元が試みられており、その中で微高地を集落として、低地を水田として利用していたことが明らかになってきている。当遺跡は住居跡を中心とする集落遺跡であり、周辺遺跡で確認された住居跡と同様に微高地上の立地となっている。当遺跡の南東には奈良・平安時代を中心とする集落跡が検出された六供下堂木Ⅲ遺跡Ｂ地区があり、標高差や時代から周辺遺跡との関連を合わせて当時の土地利用を復元すると、古墳時代を中心とする集落が当遺跡周辺で営まれた後、集落の拠点が南東に移り、奈良・平安時代を中心とする六供下堂木Ⅲ遺跡の集落群が形成されたものと考えられる。

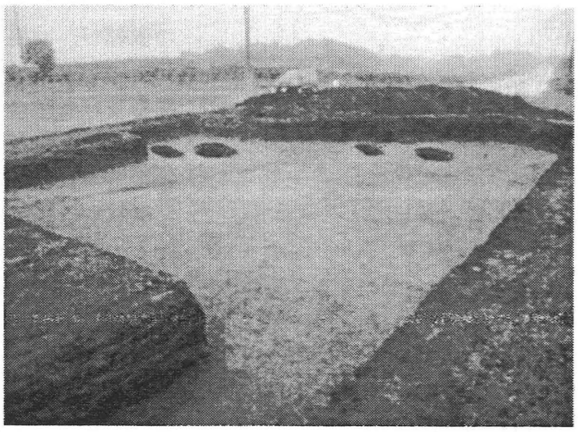
今回の調査によりこれまで確認されていなかった古墳時代中期の住居を検出したことは大きな成果である。また、既往の調査成果と併せ、周辺遺跡との関連の中で、大きなまとまりとしてではあるが当時の土地利用の一端が明らかになった。しかし、あくまでも地形的な観察の中での推察も含んでおり、今後の発掘調査により全容が解明されることが期待される。

⑭　堀越甲真木No.3遺跡(21I8)

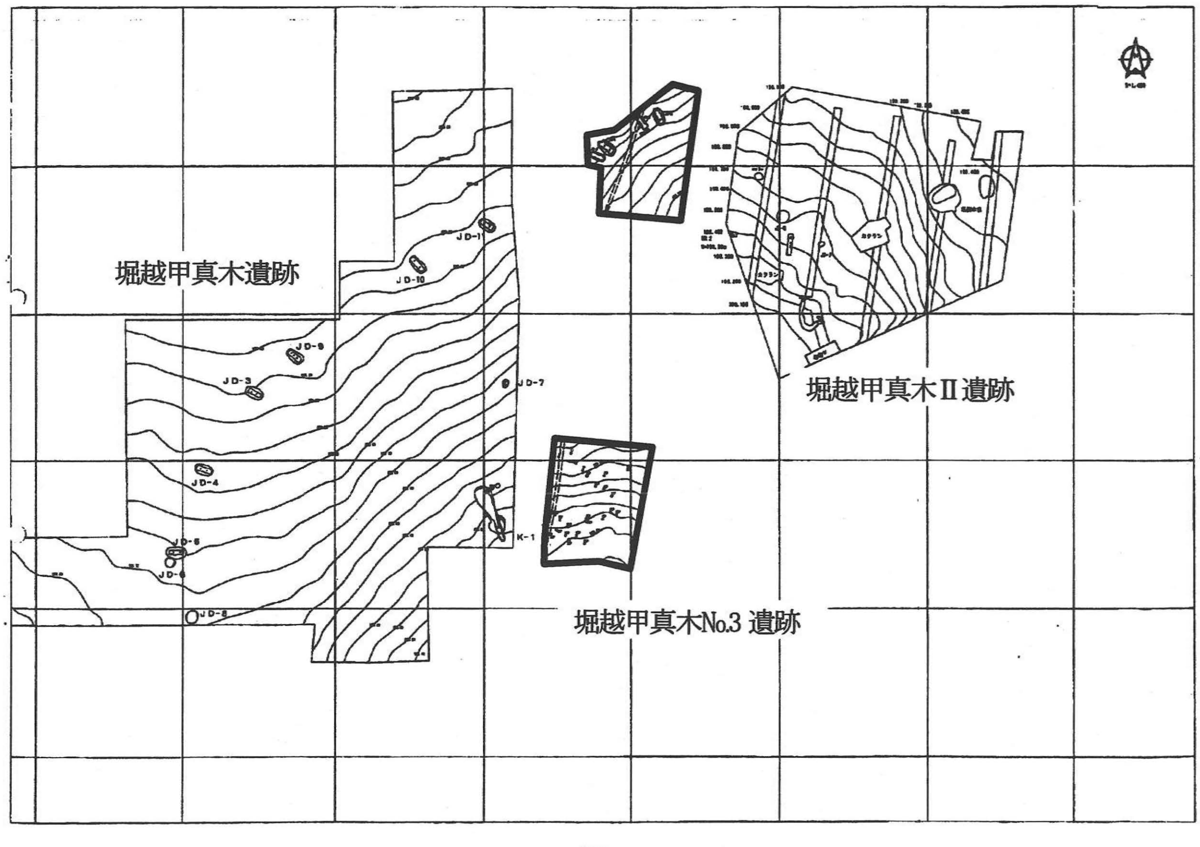


遺跡位置図

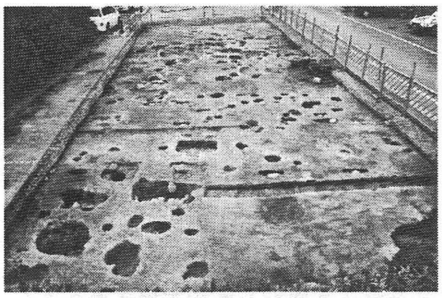
事 業 名　堀越甲真木No.3遺跡
所 在 地　前橋市堀越町579-10ほか
調査期間　平成21年6月27日から
　　　　　　平成21年7月3日まで
担 当 者　神宮　聡（前橋市教育委員会）
　　　　　　山崎芳春（有限会社歴史考房まほら）
調査面積　480㎡
調査の経緯　前橋市が行う市道大胡 2309 号線（19-2309号線）道路改良工事に伴い平成20年6月30日に実施した試掘調査の結果、縄文時代の陥穴を検出したため市と協議を行った。現状での保存が出来ないとのことから、記録保存を目的とした発掘調査を行うことになった。前橋市埋蔵文化財発掘調査団の指導のもと有限会社歴史考房まほらが発掘調査を実施した。
調査の成果　本調査の結果、縄文時代の陥穴4基、ピット25基が検出され、FP含有層から土器片2点が出土した。本調査地の西隣には堀越甲真木遺跡があり、等高線にほぼ平行で配列の間隔も一定の距離を保つ陥穴群が検出されている。東側には堀越甲真木Ⅱ遺跡があり、陥穴2基が検出されている。堀越甲真木遺跡と堀越甲真木Ⅱ遺跡の陥穴群の関連性は認められなかったが、今回の堀越甲真木No.3 遺跡の陥穴群は、堀越甲真木遺跡の陥穴群とほぼ同様の規模・間隔を示していることから、一連の陥穴群であることが認められる。

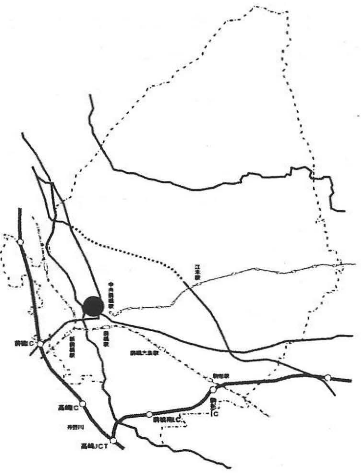


北調査区全景



⑮ 前橋城(南曲輪地点)(21H48)





遺跡位置図

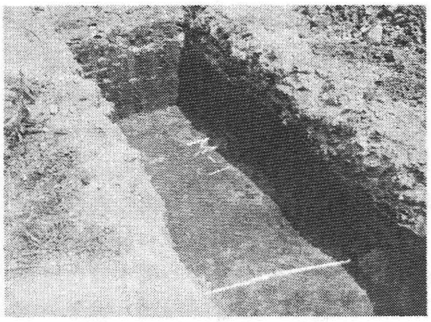
事業名　都市計画道路前橋公園通線道路改良工事
所在地　前橋市大手町一丁目135-1
調査期間　平成21年6月30日から平成21年7月22日まで
担当者　神宮　聡(前橋市教育委員会)・高階敏昭(有限会社歴史考房まほら)
調査面積　500㎡
調査の経緯　都市計画道路前橋公園通線道路改良工事に伴い平成21年4月16日に実施した試掘調査により遺構が確認されたため、平成21年4月23日付けで前橋市長より埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。これを受けた市教育委員会より、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団に発掘調査について協議を行ったところ、調査団直営による調査の実施が困難であるため、民間調査組織である有限会社歴史考房まほらへ発掘調査の委託を行った。
調査の成果　検出された遺構は、竪穴住居跡2軒・掘立柱建物跡1棟、土坑40基、ピット・礎石131基、再築前橋城堀跡1条、溝跡2条で堀跡を除き調査区中央～北側に分布する。

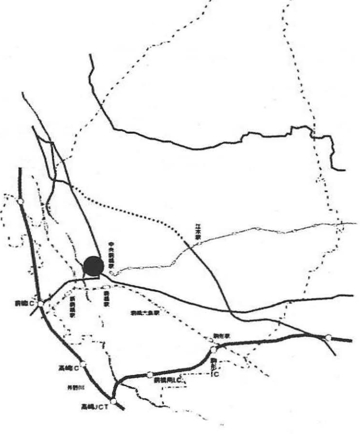
住居跡は削平が著しく、確認できたのは掘り方部分のみである。土坑の中にも住居跡の床下土坑やカマドの掘り方部分の可能性があるものが含まれることから、確認された2軒を上回る住居跡が存在していたと考えられる。出土遺物は、8世紀末～9世紀代の遺物が出土している。

再築前橋城(柿之宮門北側)の堀跡は北側の斜面部分を確認した。堀の中心は国道17号線下に位置するものと考えられる。なお、土塁の痕跡は確認できなかった。

本調査区は近世前橋城時代と再築前橋城時代は侍屋敷であった。再築前橋城時代には藩から150石を与えられた「牧　郡平」の屋敷跡と推定され、調査で確認した近世以降の掘立柱建物や数多くのピット・礎石は「牧　郡平」家の建物である可能性が考えられる。

⑯ 前橋城(21H52)





遺跡位置図

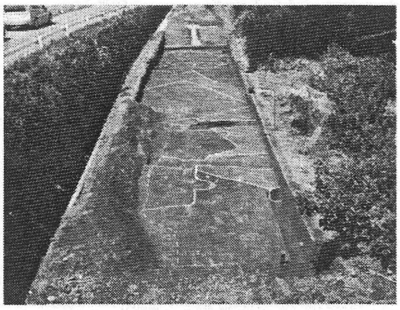
事業名　個人住宅建設事業
所在地　前橋市大手町三丁目9番5
調査期間　平成21年6月29日
担当者　塩坪丈夫・岩丸展久・神宮聡
調査面積　45㎡
調査の経緯　平成21年6月12日付けでエム・デザインスタジオより個人住宅建設に伴う埋蔵文化財開発事前調査依頼書が前橋市教育委員会に提出された。市教育委員会では、開発地が周知の埋蔵文化財包蔵地(前橋城)内であるため開発内容によっては協議が必要な旨回答した。その後、開発地の建設を担当する住友林業㈱群馬支店と協議を行ったところ、基礎改良工事(柱状改良)を行う必要があるため、事前に試掘調査を実施して遺構の有無を確認することとなった。試掘調査は平成21年6月29日に実施し、古墳の周堀や円筒埴輪片を検出した。検出された古墳の周堀については、検出範囲が開発地の東端の一部のみであったため、試掘調査終了後、担当者により発掘調査を実施した。
調査の成果　試掘調査により検出された古墳の周堀は、住宅建設予定地の北東端部より検出され、主体(墳丘)部は開発地の東側に存したと推定されるが、後世の開発により削平されている。

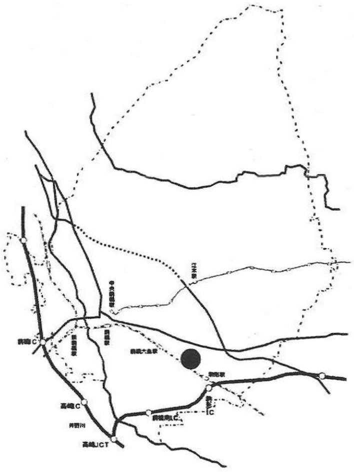
検出された周堀の覆土は、As-C・Hr-FA混土であり、上層にAs-Bが厚さ約5cm堆積していた。周堀の幅は東側の立上りが確認できなかったため確定できないが、調査範囲で約3mを測る。深さも調査範囲で約50cmを測る。

周堀から出土した円筒埴輪片は、突帯等から6世紀の前半から中葉頃と推定される。

本遺跡地周辺の利根川左岸地域では、近年の発掘調査により古墳の痕跡を確認しており、利根川変流以前は、現在の利根川左岸と一連の地区であったことから、王山古墳等と関連のある古墳の可能性も考えられる。

⑰ 女屋宮田遺跡(21F9)





遺跡位置図

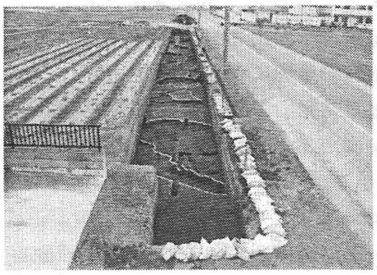
事 業 名　女屋宮田遺跡
所 在 地　前橋市女屋町 40-4 ほか
調査期間　平成 21 年 7 月 24 から
　　　　　　平成 21 年 8 月 18 日まで
担 当 者　神宮　聡（前橋市教育委員会）・佐野良平（技研測量設計株式会社）
調査面積　340 ㎡
調査の経緯　前橋市が行うまちづくり交付金事業（市道 00-081 号線道路改良工事）に伴い平成 21 年 6 月 2 日に実施した試掘調査の結果、古墳時代の住居跡を検出したため市と協議を行った。現状での保存が出来ないとのことから、記録保存を目的とした発掘調査を行うことになった。前橋市埋蔵文化財発掘調査団の指導のもと技研測量設計株式会社が発掘調査を実施した。
調査の成果　本調査の結果、古墳時代の住居跡 10 軒、土坑 1 基、中世の溝 5 条、ピット 5 基が検出され、土師器、石製品が出土した。

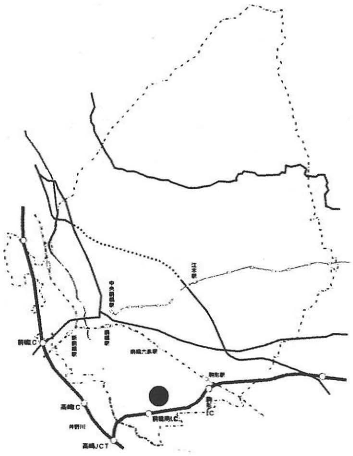
本遺跡では、古墳時代前期の住居跡が検出されているが、周辺地域では同時期の住居跡の分布は希薄であり、今井白山遺跡で 1 軒のみである。

古墳時代中期になると本遺跡を含め周辺でも集落が増加し始めるが、これは広瀬川低地帯周辺の微高地上に集落を形成していた人々が低地内の微高地にまで集落域を拡げ水田等の生産域拡大を図ったためと考えられる。

今回の調査により、古墳時代から中世以降に至るまでの遺構が多数確認され、旧利根川氾濫原の微高地である女屋地域で当時の人間が生活を営んでいたことが証明された。また、現在の桃ノ木川流路に近い調査区南側で住居跡が確認できたことは現在と当時の河川流路にズレが生じていることが窺える。広瀬川低地帯内は大規模開発が少なく発掘調査事例も他地域と比べ多くないが、近年増えつつある発掘調査事例と今後の調査・研究によって広瀬川低地帯内での遺跡分布・集落の動向が解明されることを願いたい。

⑱ 房丸桜町遺跡(21G69)



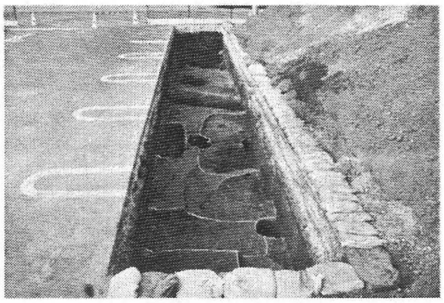


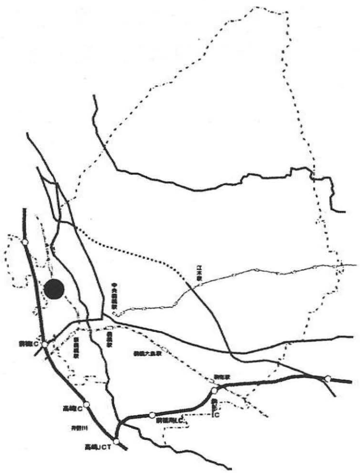
遺跡位置図

事 業 名　市道 00-104 号線歩道整備
所 在 地　前橋市房丸町 19-2 ほか
調査期間　平成 22 年 1 月 18 から
　　　　　　平成 22 年 2 月 23 日まで
担 当 者　神宮　聡（前橋市教育委員会）・中村岳彦、佐野良平（技研測量設計株式会社）
調査面積　460 ㎡
調査の経緯　前橋市が行う地域活力基盤創造交付金事業（市道 00-104 号線歩道整備工事）に伴い平成 21 年 2 月 3 日に実施した試掘調査の結果、古墳～平安時代の住居跡を検出したため市と協議を行った。現状での保存が出来ないとのことから、記録保存を目的とした発掘調査を行うことになった。前橋市埋蔵文化財発掘調査団の指導のもと技研測量設計株式会社が発掘調査を実施した。
調査の成果　本調査の結果、古墳～平安時代の住居跡 5 軒、掘立柱建物跡 1 軒、溝 15 条、土坑 4 基、井戸 2 基、ピット 20 基等が検出され、灰釉陶器、須恵器、土師器が出土した。

本調査では、小規模な発掘調査ながら多数の遺構が検出された。中でも、X-4 号跡は最下層に炭化物純層が検出され、残存率の高い灰釉陶器や須恵器の供膳具が集中的に出土した。本遺構の構造は、全体としては浅い皿状の落ち込みの南西側に深い溝が付属する形態を呈し、落ち込みの最深部に炭化物純層が面的に広がり、遺構の底面に沿って 10cm 前後の厚さでレンズ状に形成されていた。溝自体の最下層には部分的に砂質土の薄層が存在し流水の痕跡と考えられることから、水は炭化物純層の形成された落ち込みの最深部で滞留し、ここからオーバーフローするような状態で付属溝を北東から南西へ流れていたものと推定できる。この構造に最も近い施設としては水田経営において重要な利水施設である「溜井」の可能性が考えられる。本遺跡周辺の低地には広大な条里水田が施工されており、その根幹には周囲を流れる中小河川の水利の整備がある。その中で X-4 号跡のような小規模な溜井が補完的に形成される背景には条里水田の水利システムの弛緩が考えられる。

⑲　総社稲荷塚大道西遺跡（21A132）





遺跡位置図

事 業 名　関越交通㈱前橋事務所建設事業

所 在 地　前橋市総社町総社2533

調査期間　平成22年2月8日から
平成22年2月24日まで

担 当 者　岩丸展久・神宮　聡

調査面積　106.90㎡

調査の経緯　平成21年11月11日付けで関越交通㈱より前橋事務所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市教育委員会にあった。市教育委員会では、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団に発掘調査について協議を行ったところ、調査団より発掘調査を受諾するとの回答があった。平成21年12月28日に埋蔵文化財発掘調査業務契約書を締結し、発掘調査を実施した。

調査の成果　発掘調査は、遺構に影響を及ぼすと考えられる事務所基礎部分及び地下タンク設置部分について実施した。調査区は1～3区に区分した。

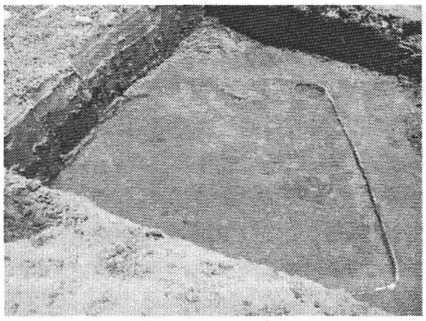
1区…住居跡3軒、溝跡2条、土坑1基、ピット3基が検出された。検出された住居跡は、古墳時代後期（6世紀後半～7世紀前半）2軒、平安時代（9世紀後半）1軒になる。2条検出された溝跡についても、それぞれの住居跡とほぼ同時期のものと推定される。特に、平安時代の所産と考えられるW-1は、覆土に流水の痕跡を確認することができた。

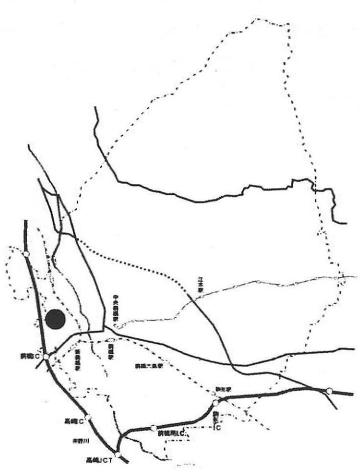
2区…住居跡3軒、溝跡1条、ピット5基が検出された。検出された住居跡はすべて平安時代（9世紀中葉～10世紀前半）の所産と推定される。

3区…住居跡2軒、土坑1基が検出された。検出された住居跡は2区と同様に平安時代（9世紀中葉～10世紀前半）の所産と推定される。

本遺跡は、国指定史跡山王廃寺の西側に近接するため山王廃寺関連の遺構・遺物の検出に期待したが、直接、山王廃寺に関連すると考えられる遺構・遺物は検出されなかった。しかし、今回の調査により本遺跡地において、古墳時代後期及び平安時代の集落が営まれていたことが確認できたことは、大きな成果であった。

⑳　元総社屋敷遺跡（21A146）





遺跡位置図

事 業 名　個人住宅建設事業

所 在 地　前橋市元総社町字屋敷2467番3

調査期間　平成21年7月13日

担 当 者　塩坪丈夫・岩丸展久・神宮聡

調査面積　30㎡

調査の経緯　平成21年5月1日付けで大和ホーム株式会社より個人住宅建設に伴う埋蔵文化財開発事前調査依頼書が前橋市教育委員会に提出された。市教育委員会では、開発地が周知の埋蔵文化財包蔵地内であるため開発内容によっては試掘調査が必要な旨回答をした。その後、住宅建築に伴い基礎改良（柱状改良）工事を行うこととなったため、平成21年7月9日付けで開発者である土田隆之より試掘調査依頼が提出され、平成21年7月13日に試掘調査を実施した。

試掘調査の結果、平安時代と推定される竪穴住居跡1軒、中世以降の土坑4基、柱穴8基を検出したため、試掘調査終了後発掘調査を実施した。

調査の成果　検出された住居跡は住宅建設予定地の北東部より検出され、覆土や出土遺物から10世紀前半頃の所産と考えられる。住居跡の概要は以下のとおりである。

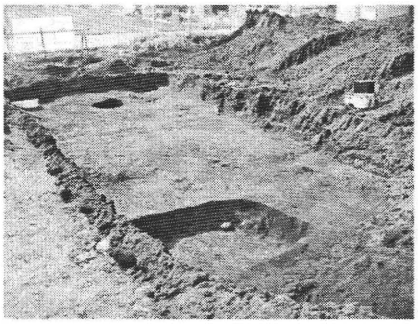
規模…長軸2.7m、短軸（3.1）m、壁現高5cm。　面積…（10.6）㎡。　床面…平坦で堅緻な床面。　竈…南寄りに位置する。　出土遺物…土師器坏等総数15点が出土した。

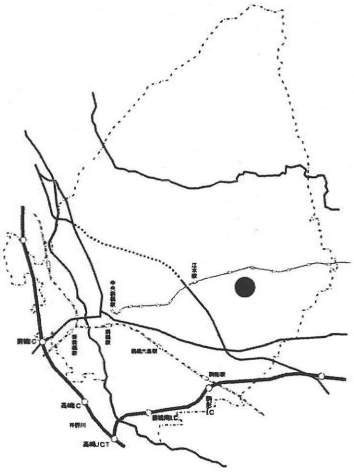
その他に検出された土坑4基、柱穴8基は、いずれも覆土に浅間B軽石の混土を含むため、中世以降の所産と考えられる。

本遺跡は推定国府域の南端部に位置し、奈良～平安時代の集落である天神遺跡や推定日高道のすぐ東側にあたる。

天神遺跡では一般的な集落ではあまり見られない八稜鏡・緑釉陶器・大型円面硯等の特殊遺物が出土しており、本遺跡地周辺の特殊性が窺える。

㉑ 山神遺跡(21I9)





遺跡位置図

事 業 名　集合住宅建設事業

所 在 地　前橋市茂木町644番1

調査期間　平成21年10月8日

平成21年10月29日

担 当 者　岩丸展久・神宮　聡

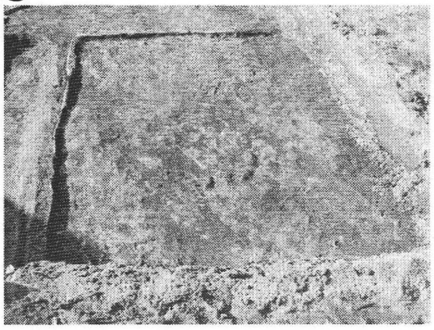
調査面積　88㎡

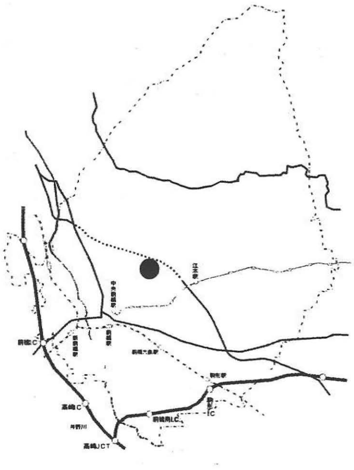
調査の経緯　平成21年7月22日付けで赤石暁一郎事務所より集合住宅建設に伴う埋蔵文化財開発事前調査依頼書が前橋市教育委員会に提出された。市教育委員会では、開発地が周知の埋蔵文化財包蔵地内であるため試掘調査が必要な旨回答をした。その後、平成21年7月27日付けで開発者である林　静世より試掘調査依頼が提出され、平成21年8月6日に試掘調査を実施した。

試掘調査の結果、古墳～奈良・平安時代と推定される竪穴住居跡4軒、土坑1基、溝跡1条を検出したため開発者と協議を行ったところ、集合住宅部分については、盛土を行い保護層を確保することとなったが、保護層の確保出来ない浄化槽設置部分について発掘調査を実施した。

調査の成果　浄化槽設置部分の調査は、開発区域内に浄化槽2基を設置するため、2回に分けて調査を実施した。10月8日に実施した調査では、柱穴3基を検出するにとどまった。検出された柱穴は覆土から古代のものと推定される。10月29日に実施した調査では、竪穴住居跡1軒、土坑2基を検出した。住居跡は南西隅部分のみの検出にとどまり、規模は長軸(1.7)m、短軸(1.0)m、壁現高28.5cmを測る。また、床面は平坦で周溝の設置が確認された。出土遺物は土師器甕・坏片等が出土している。土坑2基については、覆土・出土遺物から住居跡とほぼ同時期と推定される。

㉒ 胴城遺跡(21C47)





遺跡位置図

事 業 名　携帯電話基地局建設事業

所 在 地　前橋市鳥取町355番1

調査期間　平成21年12月1日

担 当 者　岩丸展久・神宮　聡

調査面積　50㎡

調査の経緯　平成21年8月26日付けで㈱川北電工より携帯電話基地局建設に伴う埋蔵文化財開発事前調査依頼書が前橋市教育委員会に提出された。市教育委員会では、開発地が周知の埋蔵文化財包蔵地内であるため試掘調査が必要な旨回答した。その後、平成21年11月12日付けで開発者であるＫＤＤＩ㈱より試掘調査依頼が提出され、平成21年12月1日に試掘調査を実施した。試掘調査の結果、竪穴住居跡1軒を検出したため、試掘調査終了後、担当者により発掘調査を実施した。

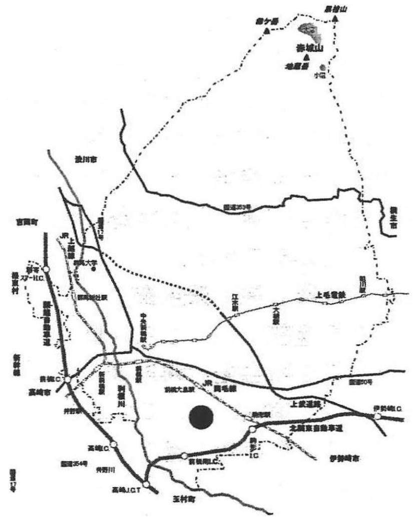
調査の成果　検出された住居跡は、基地局建設予定地の北東部より検出され、覆土や出土遺物から5世紀後半頃の所産と考えられる。住居跡の概要は以下のとおりである。

規模…長軸(3.8)m、短軸(3.2)m、壁現高5cm。　面積…(10.6)㎡。　床面…　平坦で堅緻な床面。　炉…中央やや南寄りに位置する。長軸68cm、短軸30cm、深さ3cmを測る。　遺物…土師器坏等総数15点が出土した。

今回調査を実施した調査区北側は、平成19･20年度に国道17号線上武道路の建設に伴い(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団により発掘調査が実施されており、旧石器時代から中世以降にかけての遺構・遺物が多数出土している。

今回検出された住居跡は、出土遺物から古墳時代後期(和泉期)の所産と考えられるが、事業団調査では同時期の住居跡の検出は少ない。

㉓ 山王若宮Ⅳ遺跡（21G66）

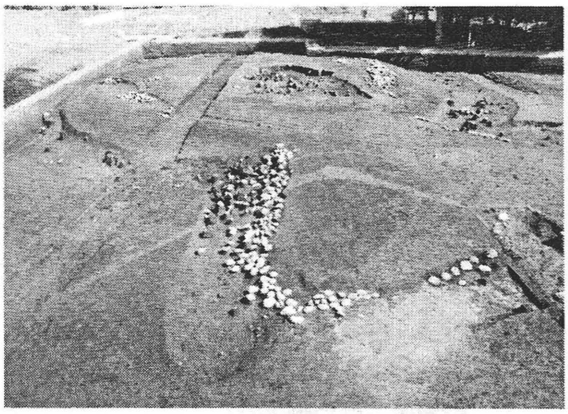


遺跡位置図

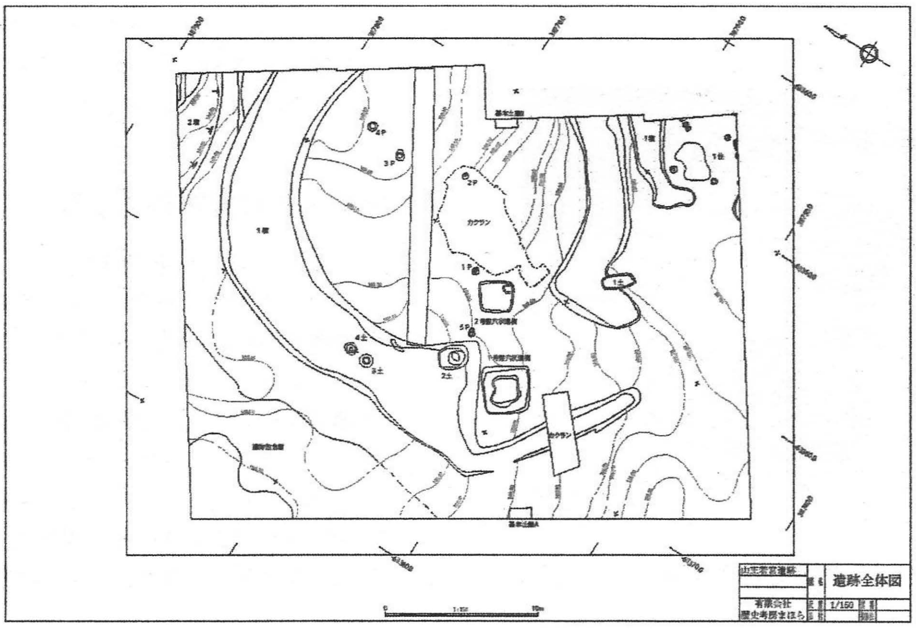
事業名　老人ホーム建設工事
所在地　前橋市山王町123ほか
調査期間　平成21年9月16日から
　　　　平成21年11月13日まで
担当者　神宮　聡（前橋市教育委員会）・澤田福宏
　　　（有限会社歴史考房まほら）
調査面積　1,095㎡
調査の経緯　老人ホーム建設に伴う試掘調査を平成21年1月15日に行い、古墳時代の住居跡等を検出した。医療法人社団清宮医院と遺跡の保存について協議を行ったところ現状での保存が不可能なため、平成21年4月13日に埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。調査については、清宮医院、有限会社歴史考房まほら、市教育委員会の三者で埋蔵文化財発掘調査委託契約書を締結し、前橋市教育委員会の監理のもと有限会社歴史考房まほらが発掘調査を実施した。

調査の成果　本調査の結果、古墳2基古墳時代の住居跡1軒、竪穴状遺構2基、土坑4基、溝1条、ピット5基が検出され、埴輪、土師器、須恵器等が出土した。

本遺跡が立地する山王町は、群馬県内でも有数の古墳分布地帯である広瀬・朝倉古墳群に属する。今回確認された2基の古墳のうち1号墳は帆立貝形古墳であり、本古墳群における貴重な発見となった。残念ながら墳丘のほとんどは後世の耕作等により削られていたが、周堀は明瞭に確認でき、一部に葺石の存在も認められた。2号墳は調査区北西コーナーで検出されたため、周堀の一部分のみの検出にとどまった。また、石田川期の竪穴住居跡や古墳の墳丘下から竪穴状遺構が検出されていることから、古墳が築造される以前に集落が存在したことが推測される。



古墳の葺石の状況



5　市内遺跡発掘調査事業

（1）　事業の目的

周知の埋蔵文化財包蔵地及び包蔵地外の規模の比較的大きい開発行為に対し、開発者と協議、調査を実施した。遺構や遺物等を確認した場合、県の指導要綱を基本に、開発者と埋蔵文化財の保存協議を行った。

（2）　事業の内容

①　調査方法

開発地内に調査トレンチを設定、重機による表土掘削後、人力による精査をして、遺跡の有無、遺跡の範囲確認を行った。調査面積は、開発面積の１割程度を基本に調査をした。

②　記録作成

区域内の全体図作成、トレンチ内の遺構分布図、土層図を作成した。縮尺は開発区域の大きさにより、随時調整した。また写真撮影を行い記録資料とした。

（3）　調査結果

試掘調査は、５６件実施した。このうち、１９件で埋蔵文化財が確認できた。

①　確認できた遺跡の時代

縄文時代～近世にかけての遺構を確認した。

②　調査した遺構

住居跡、古墳、水田跡等。

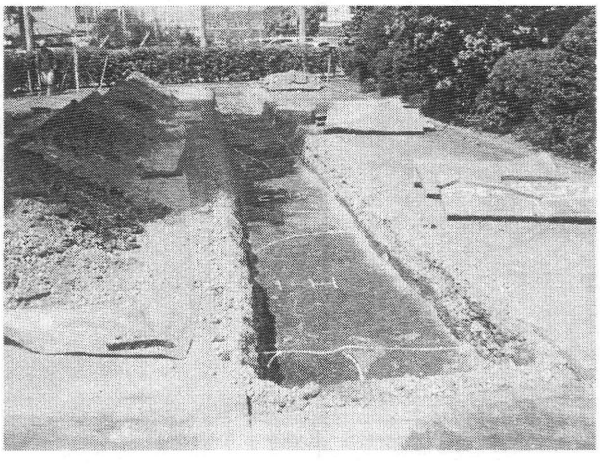
③　試掘調査から発掘調査をした主な遺跡

ア　前橋城（南曲輪地点）

奈良・平安時代の集落跡、近世の堀跡

イ　女屋宮田遺跡

古墳・奈良時代の集落跡、中世の溝跡



試掘により発見された遺構

6　遺跡台帳整備事業

（1）　報告書のＰＤＦファイル化

５年計画の４年目。昨年度に引き続き、台帳整備の一環として、旧粕川村教育委員会、旧富士見村教育委員会及び前橋市教育委員会発行の報告書５２冊、１６４遺跡、５，５５９頁のデジタル化作業を直営作業として実施した。

概要は以下のとおりである。

・旧粕川村教育委員会発行報告書

１３冊、１６遺跡、１，２６４頁

・旧富士見村教育委員会発行報告書

３３冊、１４２遺跡、２，７８９頁

・前橋市教育委員会発行報告書

６冊、６遺跡、１，５０６頁

（2）　遺跡分布調査

平成１５年度より開始した詳細遺跡分布調査の７年目にあたり、本年度は富士見地区を調査対象とした。

本事業は、資料の整備と踏査の大きく２つに分けられる。

①　資料の整備

ア　過去の発掘調査から遺跡地図を作成。

イ　踏査記録から、一筆毎の遺物取得地図を作成。

ウ　上記２地図及び平成１９年度作成の地形図を利用し、包蔵地の線引きを行った。

②　踏査

１１月から１月に実施した。合併前、当地区においては、圃場整備等に伴う発掘調査により、大まかな遺跡の存在は周知されていたものの、全域を対象とした、踏査の実施がなされていなかった。今回全域を対象とした踏査を実施したことにより包蔵地線引きのための貴重な資料が得られた。

7　埋蔵文化財資料整備事業

(1)　普及パンフレットの作成

平成２１年度に前橋市内で実施した埋蔵文化財発掘調査の成果を広めるため、Ａ３版の両面印刷（表面カラー）の「い・せ・きワールド in 前橋 2010　平成２１年度前橋市埋蔵文化財発掘調査のまとめ」というパンフレットを作成した。

表紙はカラーということで写真を多く取り入れ、裏面には前橋市のどの場所で調査が行われたか地図を配置し、調査内容をわかりやすくまとめた。

7,000 部作成し、平成２２年度初めに市内小・

中校ならびに市立図書館、教育関係機関等に配布し、文化財に対する啓発を進めた。

（2）　出土遺物の活用

平成２１年度の埋蔵文化財関係の出土遺物の貸出は１８件だった。

主な貸出資料・貸出先は以下のとおりである。

貸出資料	貸出先	目　的
白藤 P-6 号墳ほか３古墳出土埴輪	群馬県立歴史博物館	企画展
山王廃寺出土遺物	観音塚考古資料館	企画展
白藤 P-6 号墳出土馬形埴輪	福井県立歴史博物館	企画展
天神遺跡ほか２遺跡出土青銅製容器（３点）	群馬県立歴史博物館	蛍光Ｘ線分析
鳥取福蔵寺遺跡ほか８遺跡出土遺物	安中市ふるさと学習館	企画展
内堀遺跡群Ⅵ第２１号住居跡出土遺物（土師器）	大室 KAZE の郷協議会	PR 誌への写真掲載
柳久保遺跡出土縄文土器・市之関前田遺跡出土石器・大胡城跡出土土器類	群馬県立歴史博物館	常設展示（毎年更新）

また、昨年に引き続き、市内の小学校（天川小・荒子小・二之宮小）、岩宿博物館、前橋プラザ元気２１内文化財展示コーナー、けやきウォーク、サンデンフォレスト、元総社公民館、大室公園管理事務所ホールに出土遺物の貸し出しを行った。

さらに、本年度から南橘中学校・第二中学校へ遺物の貸し出しを開始した。

（3）　旧３町村遺跡の整理

本年度は、旧宮城村教育委員会及び旧粕川村教育委員会で実施した発掘調査において、発掘調査報告書が刊行されていない遺跡の資料整理を実施した。

ア　出土遺物の整理

遺物洗浄・注記は実施済みであったところから接合の見直し・復元作業を実施した。

実測資料の選別・実測・トレースを実施した。

イ　図面資料の整理

発掘調査図面の整理を実施した。

ウ　調査履歴の確認

当地区おいて実施された発掘調査(試掘調査も含む)について行政文書などから拾い出しを実施し、履歴としてまとめた。

（4）　遺跡地図の市統合型 GIS への対応

市の統合型 GIS への、遺跡地図搭載を実施し、富士見地区を除く、市域を対象として７１６遺跡（昨年度までに１５６遺跡を搭載）を搭載した。

8　山王廃寺等保存整備事業

(1)　山王廃寺等調査委員会の実施概要

山王廃寺等保存整備事業の推進にあたり、学識経験者及び行政関係者で組織された山王廃寺等調査委員会(平成 12 年度に発足)において、山王廃寺とそれに密接な関係をもつ周辺遺跡の調査計画と整備内容の検討を十分に行いながら事業を実施した。

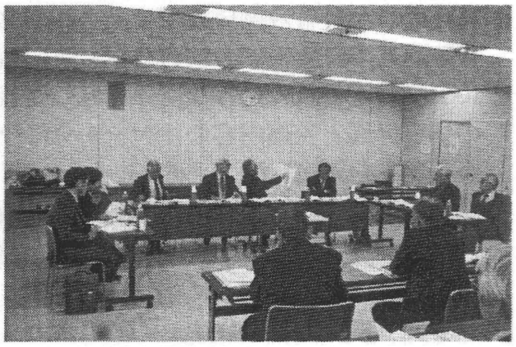
本年度は、「山王廃寺範囲確認調査計画の第４年次」に伴い、現地視察を中心とした委員会１回と通常の定例会１回の計２回を開催した。第 13 回目になる委員会は、平成 21 年 11 月 26 日に「山王廃寺範囲確認調査」発掘調査地視察

を併せて総社町山王公民館で、また、第14回になる定例の委員会は、平成22年2月26日に市庁舎11階南会議室でそれぞれ開催した。議題となった報告及び協議は以下のとおりである。なお、併せて平成21年11月16日に現地において調査部会を開催し指導を仰いだ。

(2) 第13回山王廃寺調査委員会
開催日　平成21年11月26日
現地視察
発掘調査地トレンチ各所
《協議》　山王廃寺範囲確認調査中間報告
① 推定中門について
② 南面回廊について
③ 寺域北側建物跡について
協議後に提案された意見
① 確認されている回廊との対比を行う必要性
② 中門の礎石据付痕根石と基壇構築に係る木装基壇の痕跡の可能性の検討
③ 竪穴住居跡の竈に使用されている瓦の検討
④ 伽藍と掘立柱建物群との検討

(3) 第14回山王廃寺調査委員会
開催日　平成22年2月26日
関連する埋蔵文化財の発掘調査報告
① 元総社蒼海遺跡群発掘調査について
② 宝塔山・蛇穴山古墳調査について
③ 山王廃寺出土瓦について
《協議》　山王廃寺範囲確認調査計画（案）について
① 全体計画について
② 平成21年度事業報告について
ア　南面回廊の確認
西側・南側回廊の版築と南西隅（内側の側柱）の礎石据付痕の根石を検出した。平成20年度の調査結果と合わせて、回廊の南北規模（外側の側柱間）を８１ｍと判断することができた。

イ　中門の確認
南北９ｍ以上の版築を確認し、北縁辺で瓦が集中し、雨落としか基壇の北側に施された堰板痕もしくは木装基壇の羽目板据付痕の可能性が考えられた。また、礎石据付痕の根石と考えられる川原石は中門の西側柱になろう。
ウ　寺域の確認
過去に金銅製飾り金具・銅椀・緑釉水注などが出土している地点付近を調査したが関連する遺構は検出できなかった。寺域の北東からは、柱列が西偏する布掘り工法による掘立柱建物跡と東西方位の掘立柱建物跡、さらに竪穴住居跡が重複する状態で検出された。掘立柱建物に係る柱穴からは、礎版に瓦を使用するものがあり、土坑からは化粧基壇に使用されたと考えられる角閃石安山岩の切石が２個出土した。
遺物は瓦を主体としてコンテナバット48箱ほど出土した。８世紀代と考えられる竪穴住居跡からは置き竈片と内面に暗文を施す鍋状の土器があり、僧侶の存在を示唆する遺物と思われる。
③ 平成22年度事業計画について
ア　調査地点を８ヶ所・395㎡を調査する。
平成21年度の調査範囲では解明できなかった問題点について、引き続き調査を継続する。また、５ヵ年調査の５ヵ年目となり、南回廊の確定に重点を置き、史跡地の追加範囲を確定する足がかりとする。
イ　塑像の分布範囲確認
ウ　寺域の解明


発掘調査報告

現場視察

9　群馬県緊急雇用創出基金事業

大胡埋蔵文化財収蔵庫台帳化業務

旧大胡町の文化財事務所及び河原浜収蔵庫・前橋文化会館大胡分館シャンテの展示コーナーに収蔵・展示されている出土遺物及び写真・図面等の記録、図書資料を整理し台帳化するとともに、粕川出土遺物管理センターへの移動・収納を群馬県緊急雇用創出基金事業として実施した。

（1）　出土遺物の整理

出土遺物は、泥やほこりを除去し、出土遺跡・遺構等を確認した。

完形個体・復元個体については、土器台等を使用し、遺跡ごとに棚に配架するとともに台帳を作成した。

破片資料は、ビニール袋等に収納し、台帳を作成し、荷札等を添付した。

台帳は、報告書が刊行されている遺跡からの出土遺物については、報告書に掲載された遺物の図版番号・遺物番号とリンクできるような台帳を作成した。

報告書が刊行されてない遺跡からの出土遺物は、遺跡ごとにパンケースに収納または配架するとともに台帳を作成し、遺跡ごとにまとめた。

鉄器・鉄製品・金属製品等は、台帳に記載したうえで、デシケータ内に保存した。

（2）　図面資料

調査現場にて作成された調査記録図面及び遺物実測図は、台帳として目録を作成し、遺跡ごとにまとめて封筒に収納したうえで, 図面保存用のダンボールに収納した。

調査報告書版下原稿等は報告書ごとに図面保存用のダンボールに収納した。

（3）　文書資料

測量成果簿・自然科学分析報告書等は調査図面と一緒に図面保存用のダンボールに収納した。

（4）　図書資料

大胡町が受領した発掘調査報告書や刊行物等の資料は目録となる台帳を作成し、パンケースに収納した。

あ　と　が　き

平成21年度は前橋市が県内初の中核市として新たにスタートを切った記念すべき年であります。また、5月には富士見村と合併をし、人口34万人、面積も1.3倍の311ｋ㎡となりました。

今後とも、地域ではぐくまれてきた歴史や文化を尊重しながら新生前橋市がさらに光り輝けるよう取り組んでいかなければなりません。

そうしたなかで、普及事業として3年目を迎えた高崎市との連携文化財展では縄文時代をテーマに開催しました。また、大室古墳群の利活用を図るため市民プロジェクトで制作された馬具、鏡などの「おさめの式」のイベントを開催しました。

そして埋蔵文化財の発掘調査では、前年度に引き続き元総社蒼海区画整理区域内にあると推定される上野国府跡の解明と山王廃寺範囲内容確認調査を行っています。

本書は、前橋市で実施した文化財事業の概要をまとめた資料であり、この資料が多くの皆様に活用され、文化財保護行政をご理解いただく一助となることを願っております。

平成23年3月1日

文化財保護課長　松村　親樹

平成２１年度

前橋市文化財調査委員
- 阿久津 宗 二
- 井 上 唯 雄
- 梅 澤 重 昭
- 片 山 満 秋
- 松 島 榮 治
- 村 田 敬 一

平成21年度

文化財保護課職員

文化財保護課長	篠田　薫
文化財保護係	
課長補佐兼文化財保護係長	小島　純一
副主幹	梅澤　克典
〃	堤　敏範
主　査	小田　哲生
主　任	小田　浩和
〃	馬場　崇
〃	伊與久伸子
〃	宮沢　竜一
文化財整備指導員	右島　和夫
嘱託員	佐孝　裕美
埋蔵文化財係	
課長補佐兼埋蔵文化財係長	前原　豊
副主幹	山下　歳信
〃	塩坪　丈夫
主　査	岩丸　展久
主　任	藤坂　和延
〃	真下　晃
〃	須藤　健夫
〃	阿久澤真一
〃	神宮　聡
〃	並木　勝洋
〃	福田　貫之
主　事	清水　亮介

年報 第40集 平成21年度文化財調査報告書
平成23年3月1日発行
発行 前橋市教育委員会 管理部 文化財保護課
前橋市三俣町二丁目10番地2

表紙　　文化財探訪「上毛電気鉄道大胡駅」（電車はデハ１０１）